

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面にに基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

小橋工業株式会社

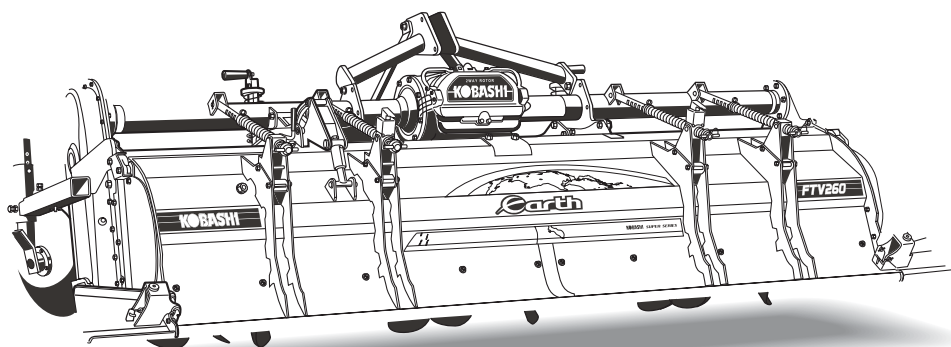
コバシツ-ウェイローター

フランチタイプ



取扱説明書

FTV



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびはコバシツウエイローターをお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、コバシツウエイローターの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためのものです。ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。また、コバシツウエイローターを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲ 危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになる状態を示します。

▲ 警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性がある状態を示します。

▲ 注意…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがある状態を示します。

取扱上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

コバシツウエイローターの使用目的・使用範囲

このコバシツウエイローターは水田・畑の耕うん・碎土整地用の作業機です。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

目 次

▲ 安全に作業するために	1
① はじめに	1
② 作業の前に	1
③ トラクタへの着脱	1
④ 防護カバー類の取付け	2
⑤ 装着時の前後バランスの確認	2
⑥ トラックへの積み・降ろし	2
⑦ 一般走行	3
⑧ 圃場への出入り	3
⑨ 作業をしているとき	3
⑩ 作業中の点検	4
⑪ トラクタを止めるとき	4
⑫ その他	4
▲ 安全ラベルの取扱い	5
サービスと保証について	6
各部の名称	7
ローターの組立	8
ジョイントの取付準備	9
① 切断方法	9
② 長さの確認	9
トラクタへの装着（日農工標準オートヒッチ）	
Lヒッチ（Ⅱ形）	10
① 装着前の準備	10
② トラクタへの装着	12
③ 装着後のトラクタとの調整	15
④ トラクタからの取外し	16

作業前の点検	17
① 各部のボルト・ナットのゆるみ	17
② ジョイントへのグリスアップ	17
③ ギヤーケース、チェンケースのオイル量	17
④ サポートハウジングのオイル量	18
⑤ ジョイントのノックピン	18
⑥ 空転、暖機運転	18
移動・圃場への出入り	19
上手な作業の仕方	20
① 作業速度と耕うん軸回転速度	20
② 作業深さの調整	22
③ エプロンの調整	23
④ 圃場の回り方	24
⑤ 逆転PTOでの土落としについて	25
クイックアシストの操作方法	26
サイドディスクの取付方法	30
耕うん爪の取付方法	32
保守・点検	34
保管・格納	43
主要諸元	44
トラクタ別装着表	46
点検整備一覧表	53
異常診断一覧表	54
主な消耗部品一覧表	56
アタッチメント一覧表	57
用語解説	58

▲安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

- 1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。
トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

- 1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

- 1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出いただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



- 1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



- 1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



- 1-6 次のような状態では、運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



- 1-7 共同作業者がいる場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

- 1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、または、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

2 作業の前に

- 2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



3 トラクタへの着脱

- 3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。



- 3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。
- 3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。
- 3-5 ジョイントのノックピンが、確実にPTO軸溝に、または作業機入力軸溝にはまったか確認してください。



- 3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



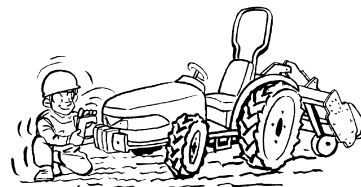
4 防護カバー類の取付け

- 4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

- 5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認
作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たく

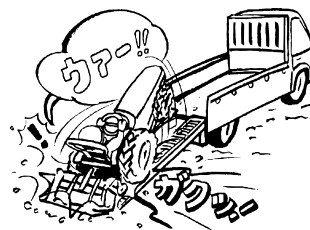
なる場合もありますので注意してください。
また、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



- 5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

- 6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。
- 6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。
- 6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。
- 6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。また途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。
- 6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



- 6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションエプロンもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

7 一般走行

7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。

(道路運送車両の保安基準)

作業機を装着して走行すると、他の車や電柱等に引っかけて事故の原因になります。



7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。



7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。

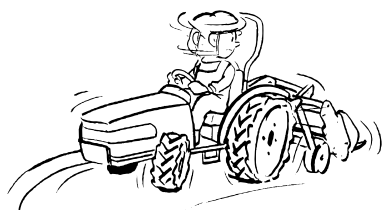


7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

7-5 作業機の落下防止速度調整レバーを締めて、必ず油圧ロックをして走行してください。

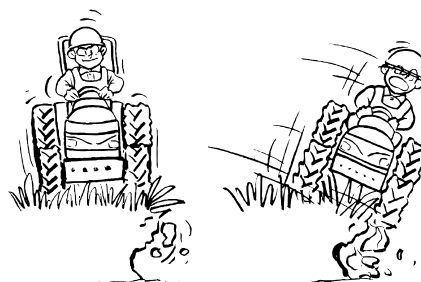
7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広い場合、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたたむための箇所は折りたたみ走行してください。またスタンドがついている場合も必ず外してください。

7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

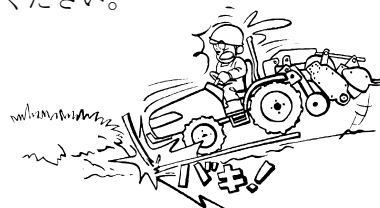
7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圃場への出入り

8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げ、うねや段差に対して直角に進んでください。

8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、または丈夫なアユミ板を使用してください。



8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようあらかじめ体調を整えてください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。
- 9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



- 9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、また、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。



- 9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



- 9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散ないように調節してください。



- 9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

- 10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれている

ことを確認した上で行ってください。
また、油圧ロックも必ず行ってください。



- 10-2 点検のために外した防護カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



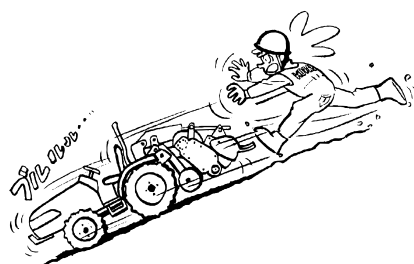
- 10-3 ラジエータ、マフラは高温になりますので、ヤケドに注意してください。

- 10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクタを止めるとき

- 11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

- 11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



12 その他

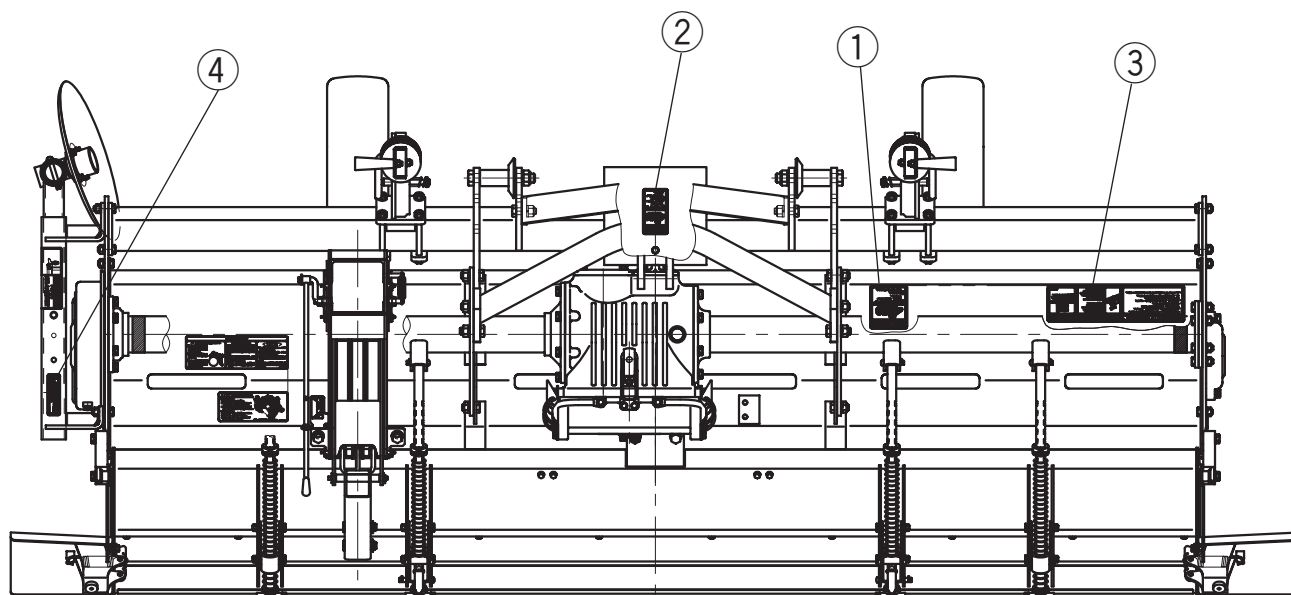
- 12-1 作業機指定のPTO回転速度を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。

- 12-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

安全ラベルの取扱い

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシツウエイローターには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



① コードNo. 9992127

⚠ 危険

- エンジンまたはジョイントが回転中は、体を近づけないでください。
- 巻き込まれて死傷する恐れがあります。

9992127

② コードNo. 9992126

⚠ 危険

- セフティカバーは、常に装着して使用してください。
- 巻き込まれて、死傷するおそれがあります。

9992126

④ コードNo. 9994127

⚠ 注意

- ディスクは周囲が鋭利になっているので取扱いには十分注意してください。
- ケガをする恐れがあります。

9994127

③ コードNo. 9993689

⚠ 注意

使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

1. 作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間に立たないでください。
2. エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。
3. 作業機の上に人を乗せないでください。
4. 点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。また、絶対に作業機の下にはいって作業をしないでください。
5. ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 警告

転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウエイトを取付けてください。

作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。

⚠ 警告

ロータリの回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。

9993689

サービスと保証について

1 保証書について

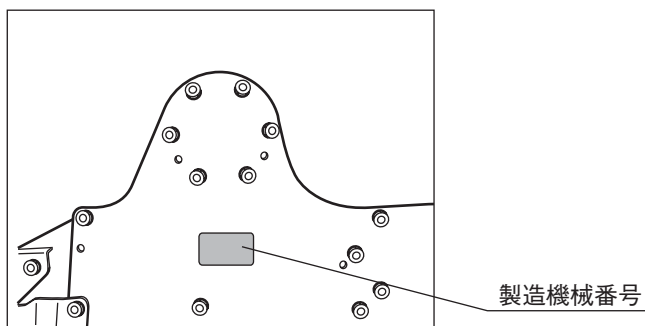
コバシツウエイローターには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



補修用部品の供給年限について

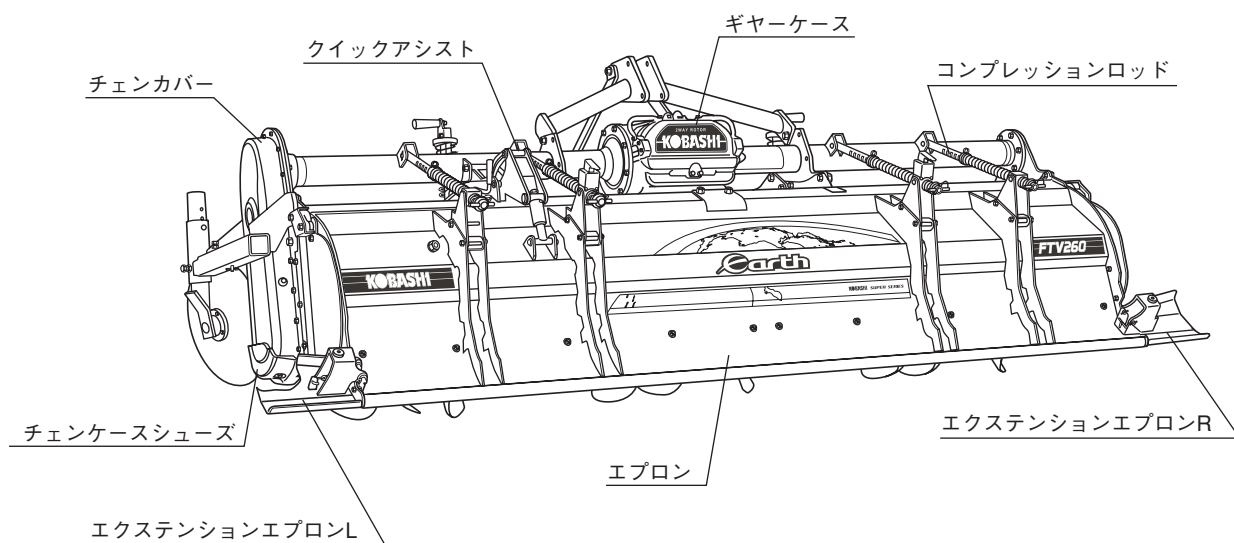
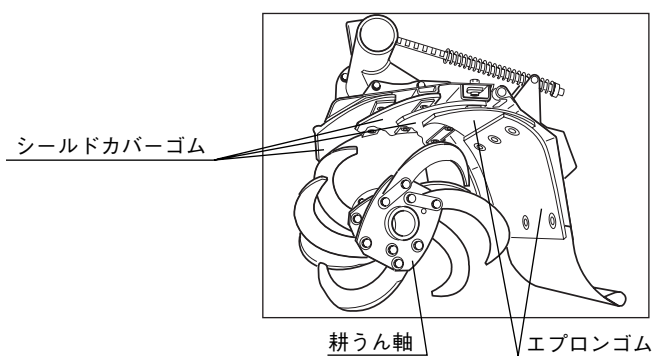
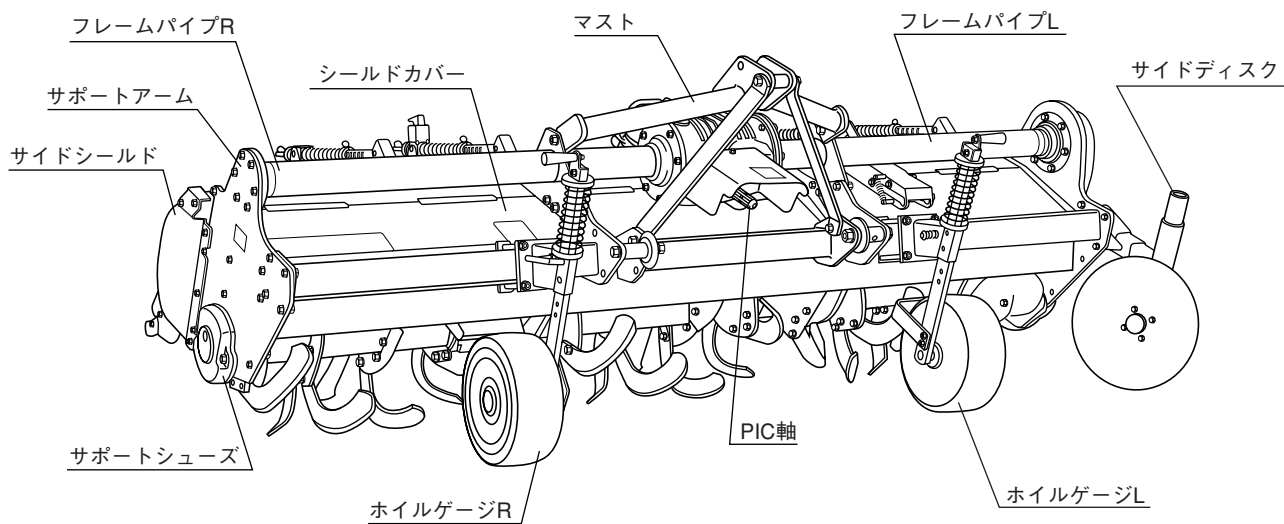
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

各部の名称



ローターの組立

1. 開梱

ローターは、鉄枠梱包されていますので開梱要領書に従って開梱してください。

▲ 注意

開梱する時は、丈夫な手袋を着用して行ってください。

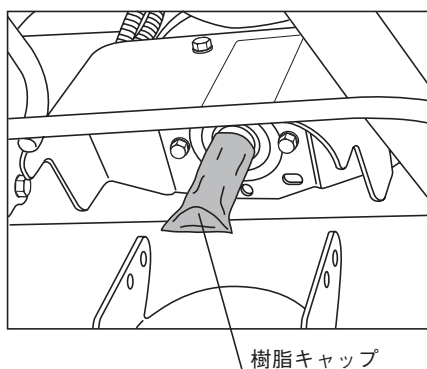
2. 付属品

作業機本体と以下の付属品が梱包されています。

部 品 名	数 量	摘 要
ジョイント	1	3L, 4Lのみ
オートヒッチアーム	1	3L, 4Lのみ
取扱説明書	1	
品質保証書	1	
ラベル (SUPER SERIES)	1	お好きな場所に貼り付けてください

取扱上の注意

PIC軸の樹脂キャップは必ず取り外してください。外さずに装着すると装着不良、オイルシール破損、オイル漏れの原因となります。



ジョイントの取付準備

取扱上の注意

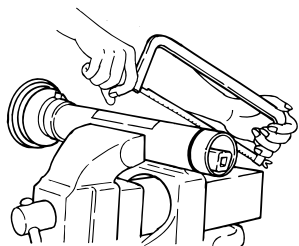
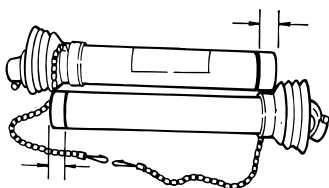
長すぎるジョイントを装着しますとトラクタのPTO軸と作業機のPIC軸を突き上げて破損し、また、短かすぎますと、ジョイントのカミ合わせが不足してチューブが破損します。

お願い

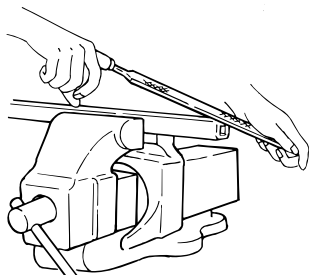
標準のジョイントがトラクタによっては、長い場合があります。トラクタ別装着表（P46～52）を参照し、切断長さを確認の上、チューブ（シャフト）とセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

1 切断方法

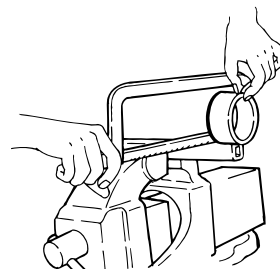
1. 長い分だけセフティカバーをオス、メス両方切りとります。



2. 切りとったセフティカバーと同じ長さでチューブシャフトを金ノコ、または、カッターでオス、メス両方切断します。



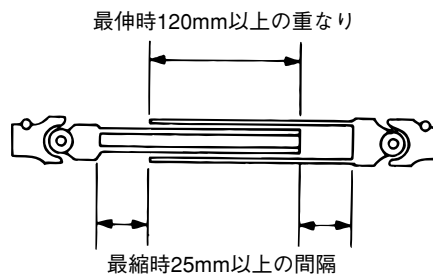
3. 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取除き、グリスを塗布して、オス、メスを組みあわせます。



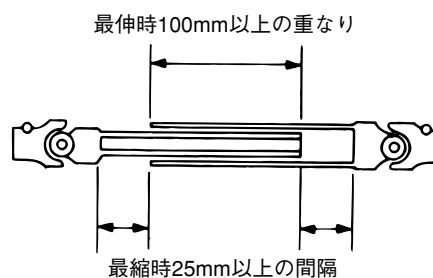
2 長さの確認

1. トラクタ3点リンクにオートヒッチを取付け、トップリンクの長さを指定の長さに調節し、ジョイントをセットしてください。
2. 徐々に作業機を上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でも、軸を突かないことを確認してください。
3. 作業機を上下してカバーのスキマを確認してください。

① KUCジョイント（4セット）の場合



② KUCジョイント（3セット）の場合



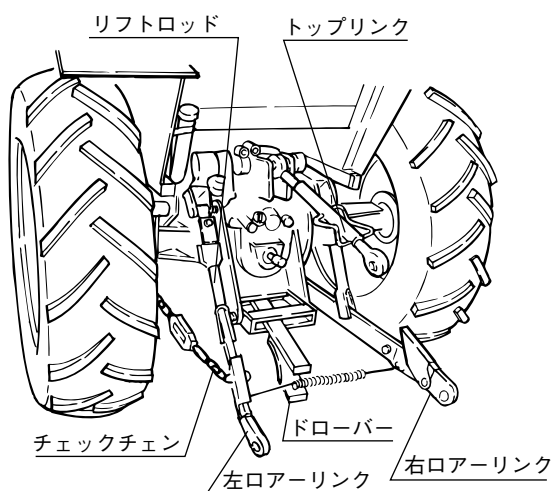
トラクタへの装着 (日農工標準オートヒッチ) Lヒッチ (Ⅱ形)

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

本機の装着方法は、標準3点リンク式のヒッチです。

また、ドロバーがジョイントに干渉する場合は、ドロバーの位置を変えるか、取外しをしてください。



取付位置は本書のトラクタ別装着表 (P46～52) を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認し、取付けてください。

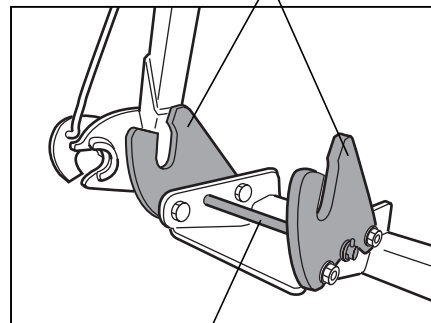
▲ 注意

オートヒッチアームは、日農工規格に準拠したものを使用してください。
類似規格のものは、使用しないでください。

2. オートヒッチの準備

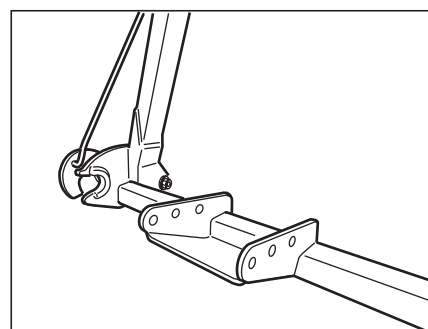
- ① 4セットの場合は、サポートプレート及びジョイントウケピンを取り付けてください。

サポートプレート



ジョイントウケピン

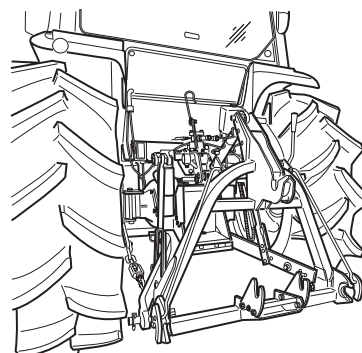
- ② 3セットの場合は、サポートプレート、ジョイントウケピンがないことを確認してください。



3. オートヒッチアームの取付け

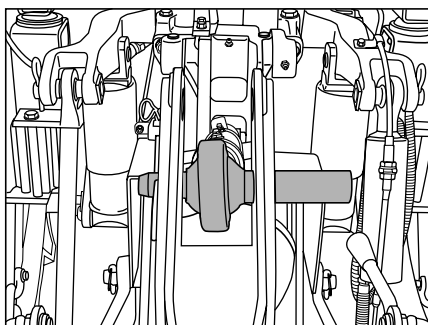
▲ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

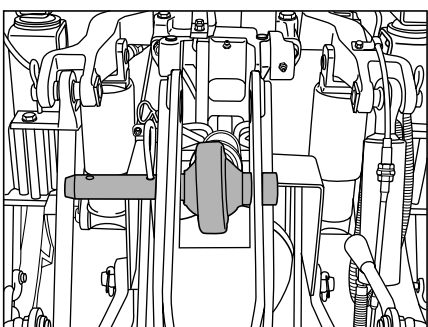


- ① トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアーリンクを最下げにします。オートヒッチアームをトップリンクを用いてトラクタのトップリンクに取付けます。付属のトップリンクピンは、カテゴリーⅠ、Ⅱ形兼用です。

○Ⅰ形の場合

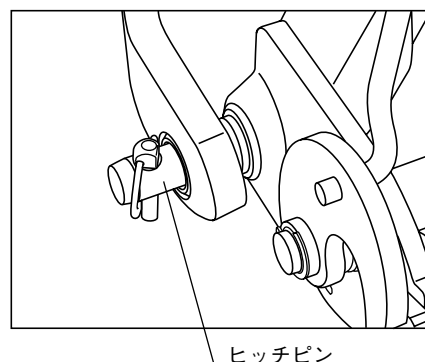


○Ⅱ形の場合

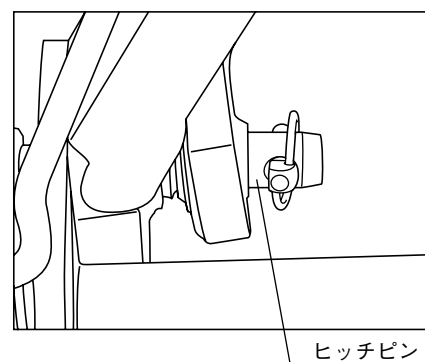


- ② 左右のロアーリンクに、オートヒッチアームのヒッチピンを取付けてください。このとき、トラクタによっては、内側セットと外側セットがありますので、トップリンク長さと合わせて、トラクタ別装着表で確認し、組付けてください。

●ヒッチピンが外向きの場合



●ヒッチピンが内向きの場合

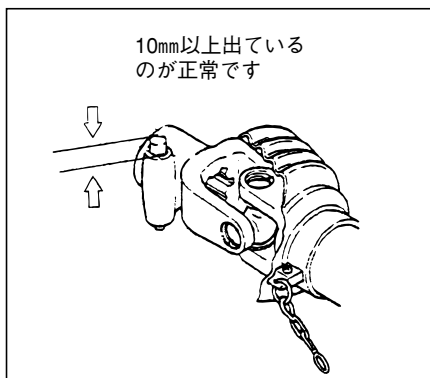


4. 4セットジョイントの取付け（4セットのみ）

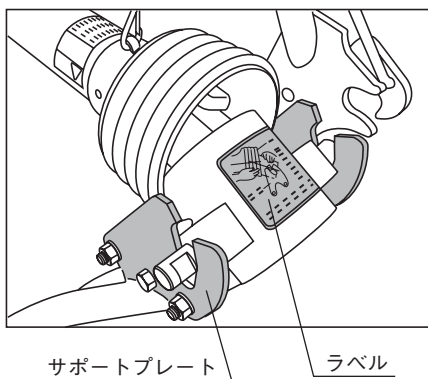
▲ 警告

ジョイントを取付ける時は必ずトラクタのエンジンを止め、PTOチェンジレバーがニュートラル（OFF）の位置になっていることを確認してください。

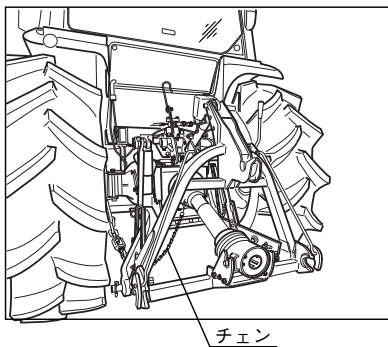
- ① トラクタのPTO軸にジョイントの広角側を取付けます。
ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み、抜け止めをします。ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。
ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側と作業機側のノックピンを確認してください。



- ② ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットしてください。



- ③ ジョイントセフティカバーのチェーンを固定し、回り止めをしてください。
この時、作業機を最下げにしてもチェーンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



5. オートヒッチアーム位置の調整

チェックチェーンを張ってオートヒッチアームをトラクタの中心部に合わせてください。
また、ローリンクの左右の高さも均等にしてください。

▲ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

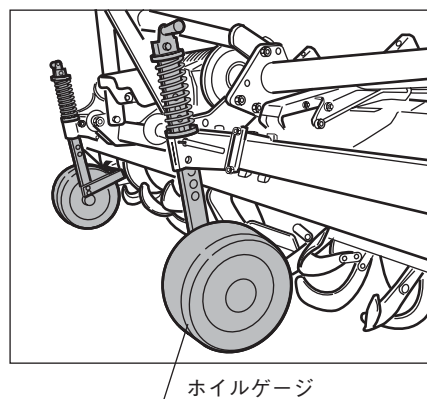
2 トラクタへの装着

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

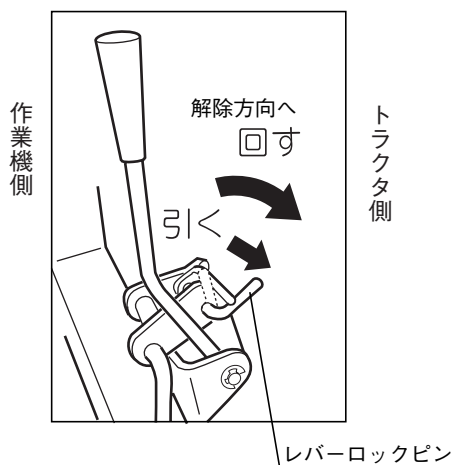
1. 作業機を装着姿勢にします

前ゲージ輪の穴位置を上から5～8番目の位置にして、作業機を前傾姿勢にしてください。



2. オートヒッチアームのレバーロックピンを外す

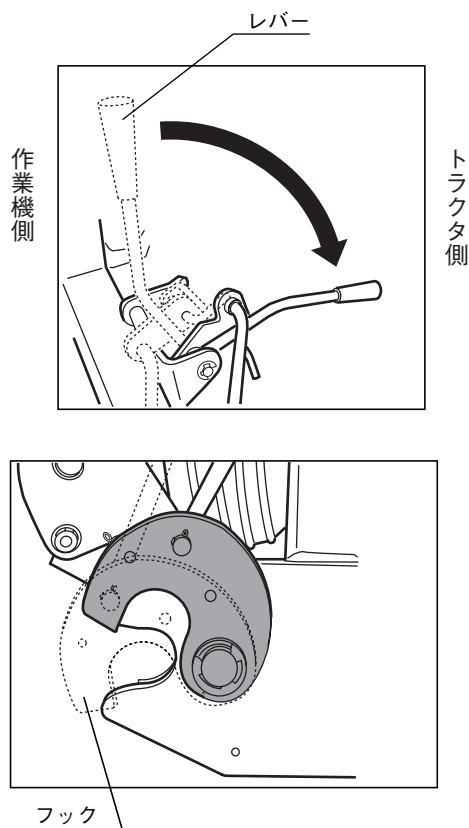
作業機を装着する前に、オートヒッチアームのレバーロックピンを下図のように操作し、ロックを外します。これでレバーが操作可能となります。



- ① レバーロックピンを引張って
- ② 解除方向へ回す

3. オートヒッチフックのロックの解除

レバーをトラクタ側へ倒し、ロックを解除し、フックを開いておきます。

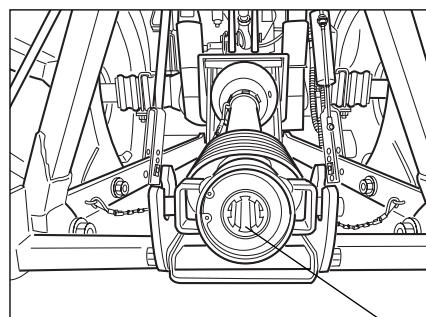


⚠ 注意

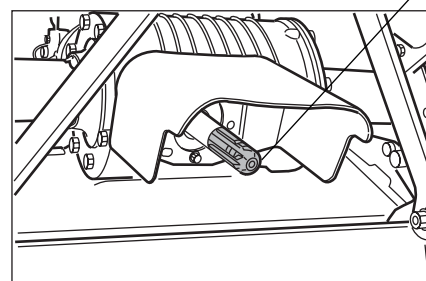
レバーを倒した状態にしたまま、作業機昇降装置を上下しますと、レバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行ってください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

※ 4 セットの場合は、装着前に作業機のPIC軸とジョイントの結合部に十分にグリスを塗布してください。



グリス塗布



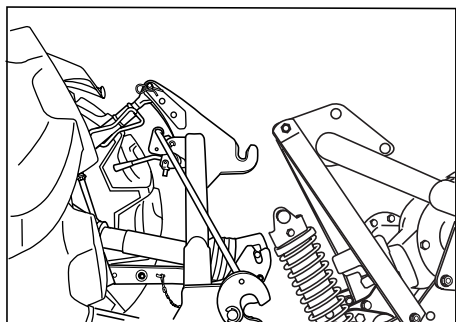
4. 取付け

- ・バックしてヒッチを合わせる

トラクタのPTOの変速は、ニュートラルにしておいてください。

オートヒッチアームを下げて、トラクタをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマストのピンの下側にオートヒッチアームのフックを合わせます。

この時、トラクタと作業機が直角になるようにしてください。



5. フックを合わせてリフトアップ

ポジションコントロールレバーを上げて、作業機をゆっくりとリフトアップすると、

① 3セットの場合

- ・オートヒッチアームのフックと作業機のトップリンクカラー・ガイドカラーの3点

② 4セットの場合

- ・オートヒッチアームのフックと作業機のトップリンクカラー・ガイドカラーの3点
- ・ジョイントのスプラインとPIC軸のスプライン

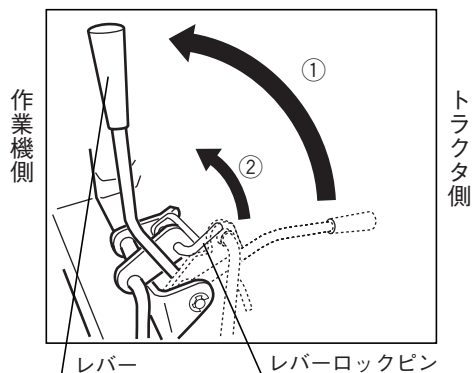
が接続されます

ジョイントが噛み合わなかった等の場合は、ポジションコントロールレバーを下げて、一度前進し、再度最初からやり直してください。また、トップリンクの長さが適切か確認してください。

6. オートヒッチアームのロック

前記項目の接続箇所が確実に接続されたら、オートヒッチアームのレバーを上を起こして、作業機とオートヒッチアームのフックをロックします。

そして、レバーロックピンを操作して、レバーをロックしてください。レバーロックピンは作業中の作業機誤解放を防止するためのものなので、作業時には必ずロックしてください。



- ① レバーを起こし
- ② レバーロックピンをロックする

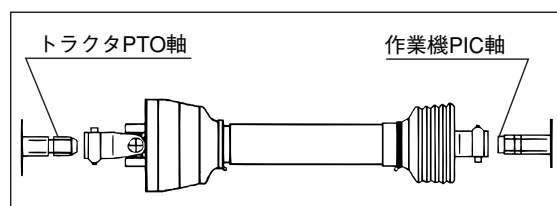
7. 3セットジョイントの取付け（3セットのみ）

⚠ 警告

ジョイントを取付ける時は必ずトラクタのエンジンを止め、PTOチェンジレバーがニュートラル（OFF）の位置になっていることを確認してください。

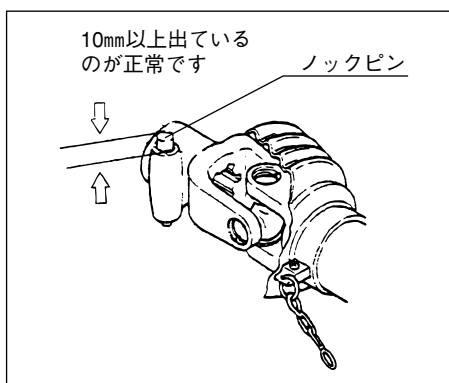
4セットジョイントと同様に、装着前にジョイントの結合部に十分にグリスを塗布してください。

必ず広角側をトラクタ側PTO軸に取付けてください。



ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めします。ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。

ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側のノックピンを確認してください。

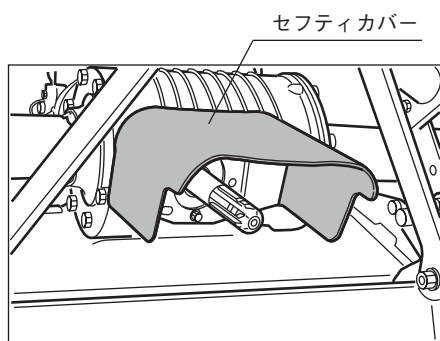


ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時、作業機を最下げにしてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。

8. 装着後の確認

⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。



取扱上の注意

1. 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手で干渉の有無を確認してから使用してください。

また、作業機が勢いよく上がるため、10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。

3. ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
4. トップリンクやローアリンクの取付位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
5. 左右の水平調節についても注意してください。

3 装着後のトラクタとの調整

1. チェックチェンの調整（左右の振れ）

作業機を持ち上げた状態で、作業機のPIC軸とトラクタのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。

2. トップリンクの調整（前後の傾き）

トップリンクはトラクタ別装着表（P46～52）を参照に調整してください。

⚠ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり危険です。

3. リフトロッドの調整（左右の水平）

作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、または、油圧スイッチを操作し、調整してください。

4. ジョイントの異音について

広角ジョイントの場合は、ジョイントと作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。

回転しても、振動や、音が出ない位置にポジションコントロールレバーの“上げ規制”をセットしてください。

4 トラクタからの取外し

▲ 注意

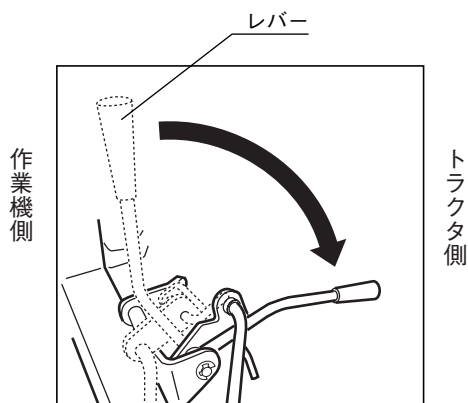
作業機を外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、取外しのためのスペースが十分取れるところで行ってください。

1. 作業機を前傾姿勢にします

前ゲージ輪の穴位置を上から5～8番目の位置にして、作業機を前傾姿勢にしてください。
(装着と同じ状態に調整します)

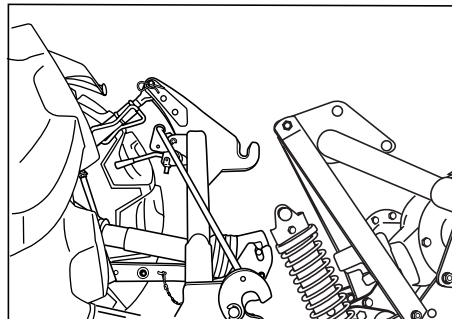
2. オートヒッチアームのロックの解除

P14の通りにレバーロックピンを解除し、レバーをトラクタ側に倒して、ロックを解除してください。



3. 作業機を下げる

ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げてトラクタをゆっくり前進させると、作業機は外れます。



◆外れない場合は、場所が平坦でないか、トラクタがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度動作をやり直してください。

作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

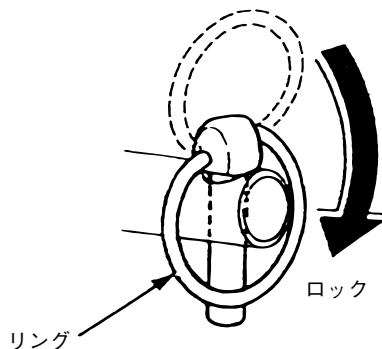
▲ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機を地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

1 各部のボルト・ナットのゆるみ

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。

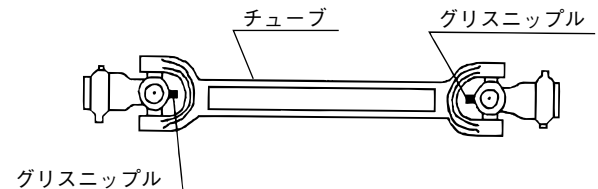
また、ピン類も全てそろっていることを確認してください。また、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



2 ジョイントへのグリスアップ

ジョイントの各部にグリスアップしてください。

- ① グリスニップル
- ② チューブ



3 ギヤーケース、チェンケースのオイル量

取扱上の注意

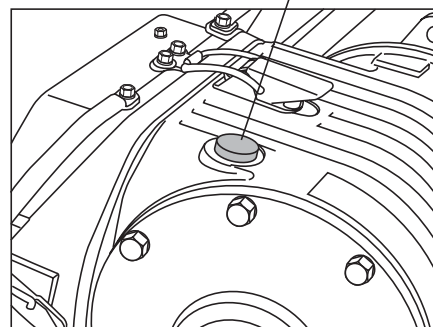
オイル量の点検は作業機のPIC軸を水平にして行ってください。

作業機が傾いていると正確な量を示さないことがあります。

1. ギヤーケースのオイル量

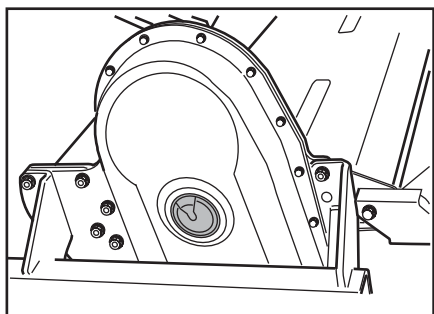
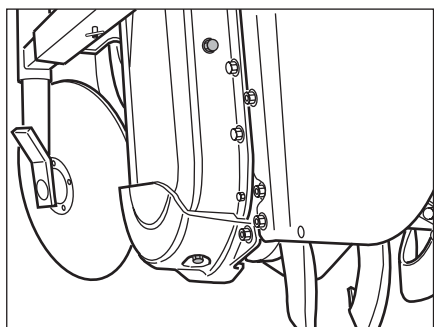
ギヤーケース後部にあるオイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき、再びねじ込み、ゲージの切り込み線までオイルがあるか確認してください。ない場合は補給してください。(ギヤーオイル#90)

オイルゲージ (給油口)



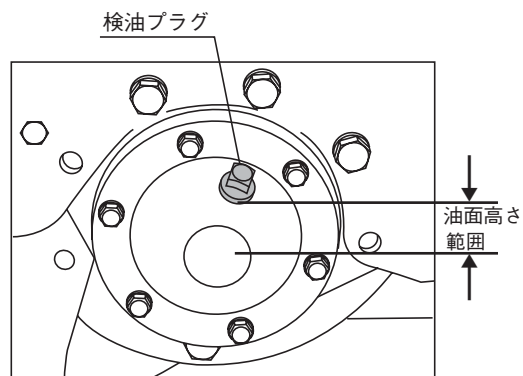
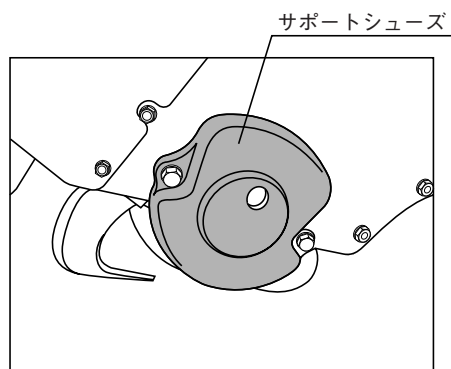
2. チェンケース

チェンケース周囲からオイル漏れがないか確認します。（オイルシール、パッキンなど）



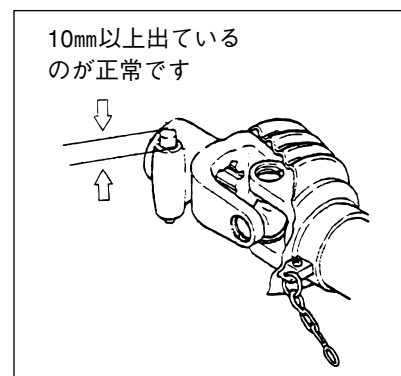
4 サポートハウジングのオイル量

初めにサポートシューズを外します。
給油口のプラグを外し、油量が軸心から給油口
までの範囲であるか確認してください。
少ない場合は補給が必要です。
（ギヤーオイル #90）



5 ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認
してください。ピンの「頭が10mm以上」出て
いるか、トラクタ側、作業機側のノックピンを
確認してください。



6 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生して
いないか確認してください。
また、暖機運転を5～10分行ってください。

移動、圃場への出入り

⚠ 警告

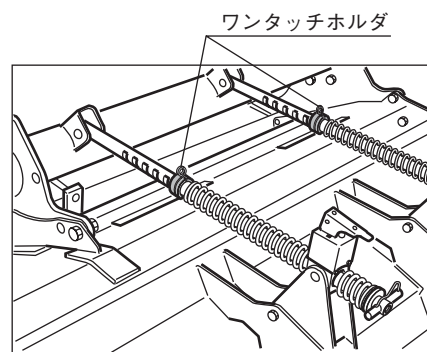
1. 移動の際は、エクステンションエプロンをたたんでください。
2. 移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の回転を止めてください。
また、チェックチェーンも確実に張れているか確認してください。
3. トラックへの積み込み、坂の登りに、トラクタの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウエイトを着けて作業機を下げて登ってください。
4. 前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
5. 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、畦や段差に対して直角に進んでください。畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。

⚠ 注意

作業機をトラックで運搬または、トラクタへマッチングしての移動時は、エプロン調整に使用するワンタッチホルダを可能な限りエプロンが上下に揺れない位置まで下げてください。

【守らないと】

エプロンが上下に大きく揺れ、機体が破損します。



上手な作業の仕方

▲ 注意

1. 運転中は危険ですから、トラクタ及び作業機の周囲には、補助作業員や、他の人を絶対に近づけけないようにしてください。
2. 作業機を調整、整備する場合や、爪軸等への草、ワラのからみ付きを取除く場合は必ず、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
3. 畦畔での作業は、作業機を畦に引っかけないように、ゆっくりと注意して行ってください。
4. 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

取扱上の注意

作業機を地面に下ろしたままバックしないでください。

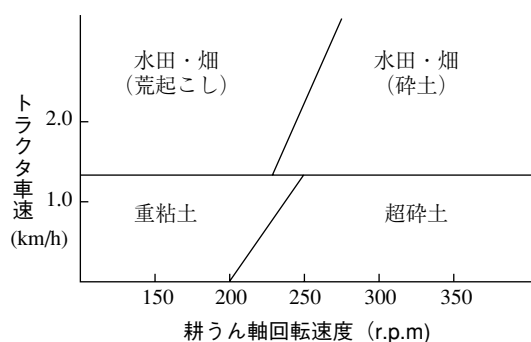
【守らないと】

耕うん爪でカバーゴムを損傷させる恐れがあります。

1 作業速度と耕うん軸回転速度

作業目的と土地条件に合わせて、トラクタの車速と耕うん軸回転速度を決めてください。

下図は作業の目安として参考になしてください。



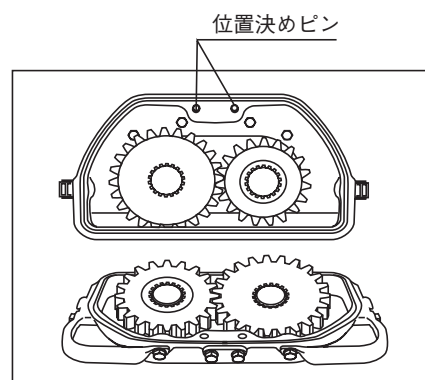
取扱上の注意

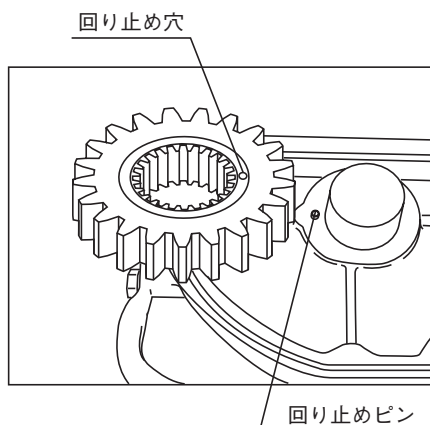
1. 逆転での土寄せなどの作業はしないでください。
2. 土地条件に応じた作業速度、PTO軸回転速度、深さを選んでください。
尚、石の多い圃場では、作業速度は遅くし、PTO軸回転速度も下げて使用してください。

本機の耕うん軸回転速度は、変速ギヤーの交換により標準セットで4段の回転速度が選べます。変速ギヤーの交換は、ギヤーケースカバーを外して行ってください。

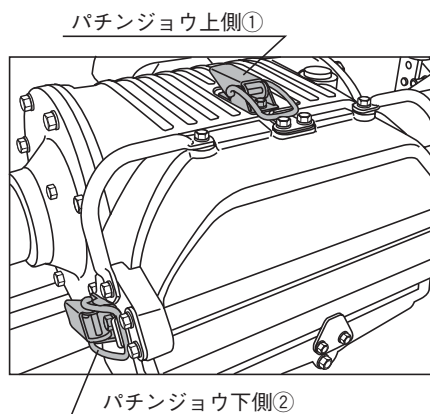
取扱上の注意

1. 予備の変速ギヤーの左右位置は大きさが組込ギヤーの逆（左が大きい場合は、右に大きいギヤーを入れる）に組み込みます。
2. 左側の予備ギヤーは回り止めのピンと穴を合わせて組み込みます。そうしないとチェンジギヤカバーの取付けができません。





交換後は、パッキンが溝からはみださないように注意して、2カ所の位置決めピンに合わせてチェンジギヤーカバーを取付けてください。パチンジョウは3カ所のうち初めに上を固定し、その後、左→右の順に固定してください。開けるときは、逆の手順で行ってください。



◆ 耕うん軸回転速度の選択

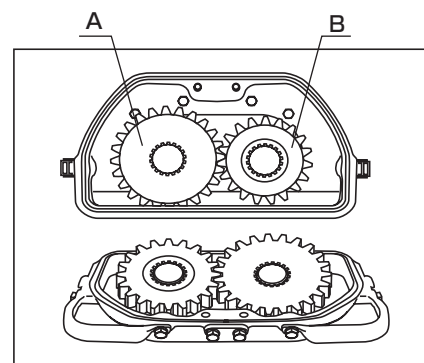
(トラクタPTO回転速度540rpm)

ギヤー組合せ		耕うん軸 回転速度 (rpm)	スタンダード 仕様
A	B		
27	22	197	◎
26	23	214	
25	24	232	○
24	25	252	○
23	26	273	
22	27	297	○
21	28	323	
20	29	351	

◎は標準組込み耕うん軸回転速度

○は予備組込み耕うん軸回転速度

空白はオプション



上記耕うん軸回転速度表はトラクタPTO回転速度が 540 rpmでの回転速度です。

トラクタPTO 回転速度を上げる場合は、耕うん軸回転速度が 180～400 rpm の範囲に収まるように変速ギヤーを交換してください。

(参考)

爪軸回転速度＝

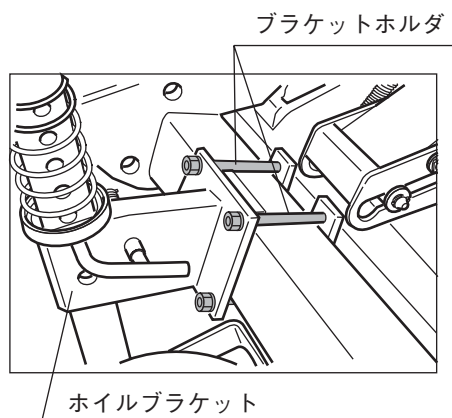
PTO回転速度×0.45×B/A (チェンジギヤ)

2 作業深さの調整

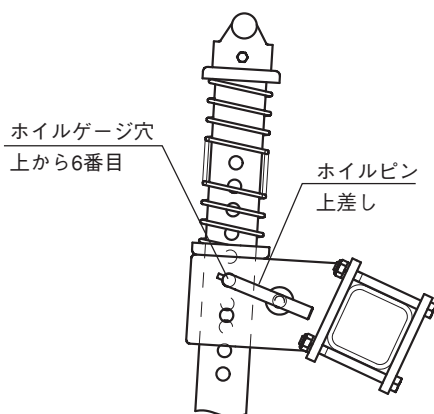
1. ホイルゲージ

耕深を安定させるために、ホイルブラケットを取り付けているブラケットホルダのナットを緩め、左右に動かし、トラクタのタイヤトレッドとホイルゲージ位置を調整してください。その後、ブラケットホルダのナットを締めてください。

ホイルゲージ高さを上下に調整して、希望の耕深を選びます。調節はホイルピンをブラケットの上下2個の穴に差し替えることにより、15mm間隔で耕深を調整できます。



ホイルゲージの上から6番目の穴にホイルピンを上側の穴から差しした時、耕深（爪底からホイルゲージ底）が130mm程度になります。



取扱上の注意

左右のホイルゲージ高さは同じにしてください。

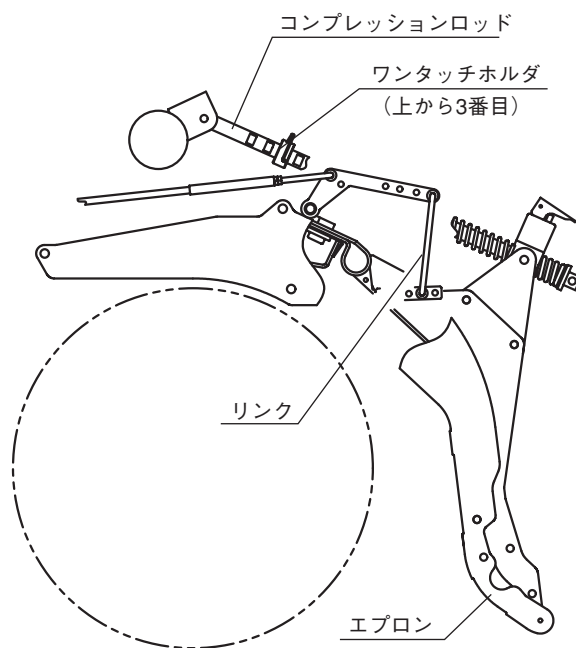
【守らないと】

作業機が傾いたり、作業機が損傷したりする恐れがあります。

2. オートロータリ（オプション）

- オートロータリを取付けた場合の耕深調節の方法は、トラクタの取扱説明書及びオートロータリの取付要領書を参照してください。

● オートロータリ作業時の取扱いについて



- ① オートロータリを使用して作業を行うときは、上図の様にワンタッチホルダを上から3番目より下の位置にセットしてください。
1、2番目の位置で使用されますと、センサ又は、トラクタ本体が破損します。
- ② エプロンをはね上げる場合は、オートロータリ金具のリンク部分を取外してください。
- ③ オートロータリおよび作業機破損防止のため、移動・運搬時はワンタッチホルダを上から3番目より下の位置にセットしてください。

3 エプロンの調整

取扱上の注意

1. 耕うん作業は必ずクイックアシストのロックが掛かった状態で使用してください。
2. エプロンをはね上げた状態での耕うん作業、路上走行及び、トラクタとの脱着作業は行わないでください。

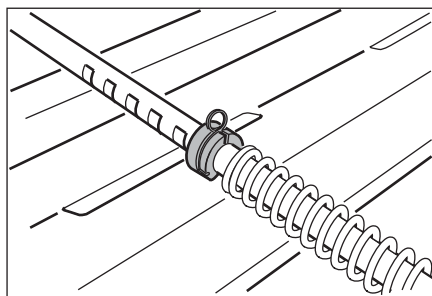
エプロンを調整することにより使用目的に応じたローターの性能（仕上がり精度、碎土、反転）を発揮することができます。

本作業機にはクイックアシストが装備されています。操作方法はP27～30の「クイックアシストの操作方法」を参照してください。

1. ワンタッチホルダの取扱い

① ロック

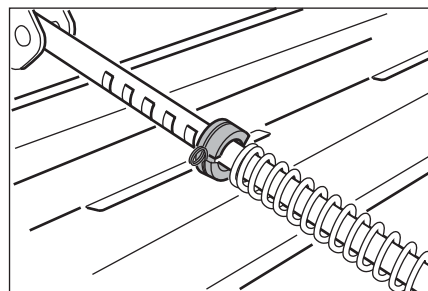
下のイラストのようにワンタッチホルダのコイル部分を上方に向けると、コンプレッションロッドの溝にロックされます。



ワンタッチホルダ（ロック状態）

② 解除

下のイラストのように、ワンタッチホルダのコイル部分を横に向けると解除され、コンプレッションロッド上をスライドさせることができます。



ワンタッチホルダ（解除状態）

取扱上の注意

左右のワンタッチホルダ位置は同じにしてください。

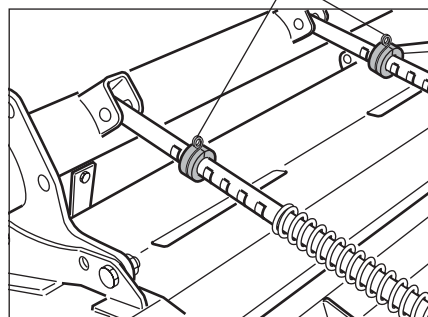
【守らないと】

機械が破損する恐れがあります。

2. 一般耕うん

ワンタッチホルダを上から1番目～3番目の溝にセットし、上側のスプリングを弱めにきかせ、エプロンで押さえ過ぎないようにします。

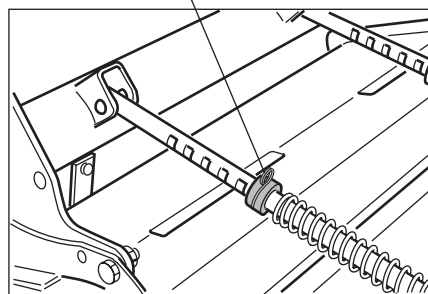
ワンタッチホルダ



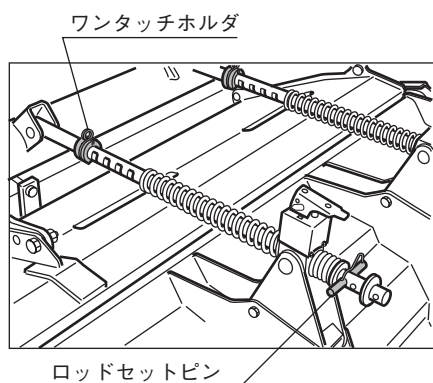
3. 碎土耕うん

ワンタッチホルダを上から4番目～7番目の溝にセットし、上側のスプリングをきかせ、エプロンの押さえを強くします。

ワンタッチホルダ



4. 石の多い圃場、湿田、粘土質圃場での耕うん
ワンタッチホルダを最上位置まで上げ、上側のスプリングをフリーにし、ロッドセットピンを下から2番目～6番目の穴に挿し、エプロンを少し上げた状態にしますと、土はけがよく所要馬力も少なくなります。

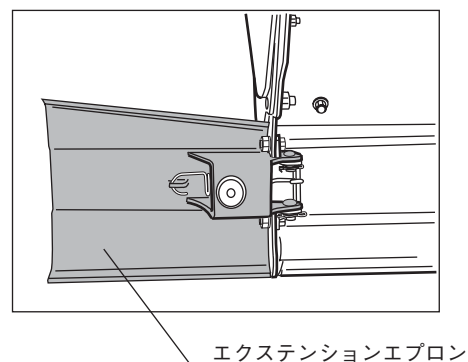


取扱上の注意

1. 耕うん作業は必ずクイックアシストのロックが掛かった状態で使用してください。
2. エプロンをロッドセットピンで持ち上げた状態では、クイックアシストの操作はできません。クイックアシストを使用してエプロンをはね上げる場合は、ロッドセットピンを元の位置に戻し、エプロンを一番下ろした状態にして行ってください。
3. エプロンをロッドセットピンで上げた状態では、オートロータリを使用した作業はできません。

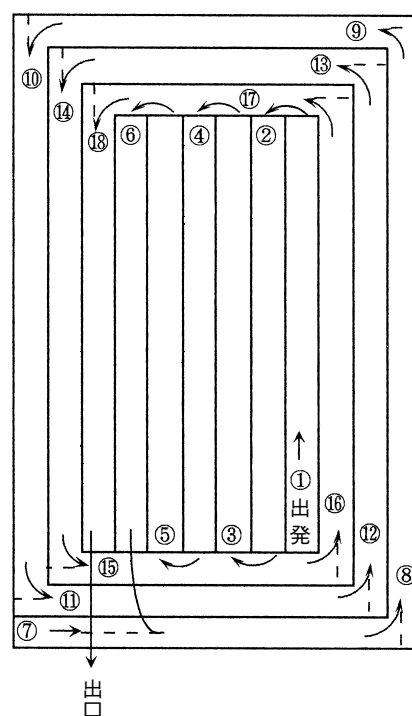
5. エクステンションエプロン

隣接部に盛る土をならす場合等に開いてください。



4 圃場の回り方

一般的に行われている隣接耕うんです。参考にしてください。あぜ際耕うんにおいては、サポートハウジングがあぜ際（チェンケース側が内側）になる方向で行ってください。



⚠ 注意

耕うん作業を行いながらの旋回はしないでください。破損の原因となります。

旋回を行うときは、作業機を持ち上げてください。

また、旋回時は周囲の障害物に注意してください。(特に、エプロン両端、エクステンションエプロン、サイドディスク)

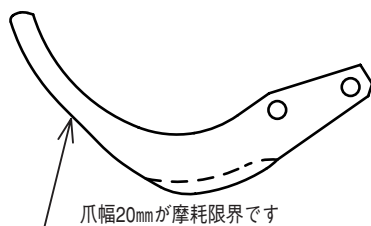
5 逆転PTOでの土落としについて

- ローターを持ち上げ、エプロンをはね上げた状態にし、PTOを逆転に入れ空転させることで、シールドカバーゴム・エプロンゴムについた土を落とすことができます。

※圃場の土質、水分状態によっては落ちにくい場合があります。

取扱上の注意

1. 逆転PTOでの空転（土落とし）操作は、エンジン回転速度を1000rpm以下に行ってください。
2. 逆転PTOでの空転（土落とし）操作は、10秒以下で行ってください。長時間逆転させると損傷する恐れがあります。
3. 逆転PTO（空転）操作の後は、必ず正転PTOでシールドカバーゴムを正常な位置に戻してください。
4. 爪が摩耗限界を超えた場合は、逆転PTOによる土落としは行わないでください。ゴム破損の恐れがあります。



クイックアシストの操作方法

▲ 注意

傷害事故防止のため、クイックアシストを操作する場合は次のことを守ってください。

1. トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
2. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
3. 作業機の周囲に補助作業員や他の人を絶対に近づけないでください。
4. エプロンを操作する場合は両手でしっかりと持ってください。また、エプロン周辺の各可動部や摺動部にむやみに手を置かないようにしてください。
5. 作業は丈夫な手袋を着用し、作業中に周辺部品に接触しないよう、注意して行ってください。
6. エプロンはね上げロックレバーの操作は、操作手順イラストのようにレバーを持ち、指を挟まないようにしてください。

取扱上の注意

1. 耕うん作業は必ずアシスト装置のロックが掛かった状態で使用してください。
2. エプロンををはね上げて保持する場合、必ずはね上げロックを使用してください。
3. エプロンををはね上げた状態での耕うん作業、路上走行およびトラクタとの脱着作業は行わないでください。
4. オートロータリを取り付けている場合は、オートロータリ金具のリンク部分を取外し、はね上げ操作を行ってください。

5. エプロンをロッドセットピンで持ち上げた状態では、クイックアシストの操作はできません。

クイックアシストを使用してエプロンをはね上げる場合は、ロッドセットピンを元の位置に戻し、エプロンを一番下ろした状態にして行ってください。

6. 土や石がクイックアシスト周辺に付着している場合は、きれいに清掃を行い、支点部、摺動部へグリスアップしてから、エプロンのはね上げ作業を行ってください。（保守・点検 P37 ⑤参照）

●クイックアシスト概要

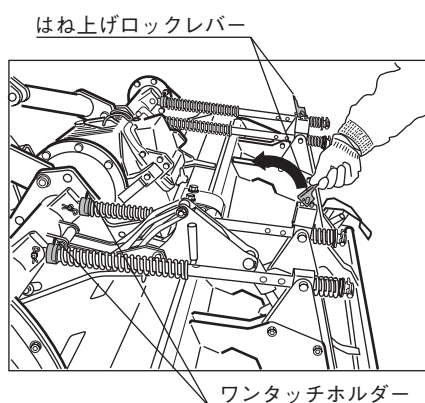
クイックアシストはガススプリングを使用した、エプロンはね上げ補助装置です。

クイックアシストを使用することで、エプロンはね上げ作業負荷を軽減できます。

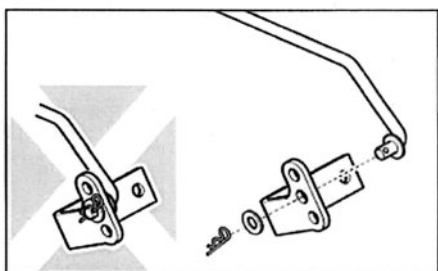
1. エプロンはね上げ操作

逆転PTOによる土落としをする場合や、爪交換などのメンテナンス作業の時に、エプロンをはね上げます。

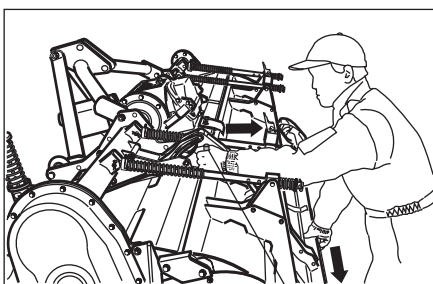
- ① ワンタッチホルダを最上位置まで上げ、2ヶ所のエプロンはね上げロックレバーをイラストのように起こしてください。



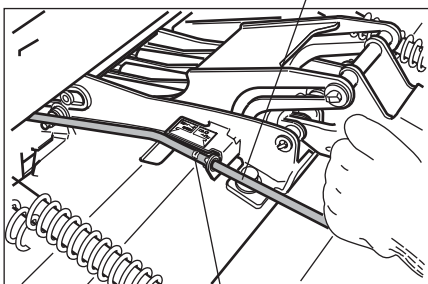
※オートロータリを取り付けている場合は、オートロータリの金具のリンク部分を取外してください。



② エプロンを押し下げながら、アシストハンドルを手前に引き、アシスト装置のロックを解除してください。解除により、アシストハンドルの矢印ラベルはラベルの「はね上げ」を指しています。



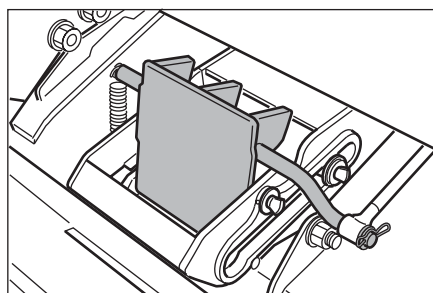
アシストハンドル



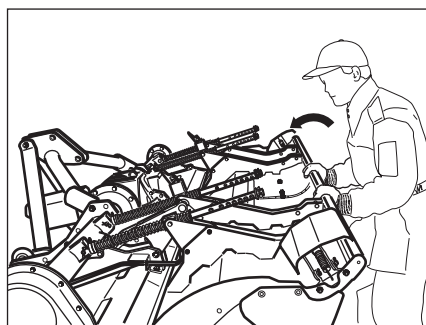
矢印ラベル

ロック解除時には、ロック部品は下図のような開いた状態になっています。

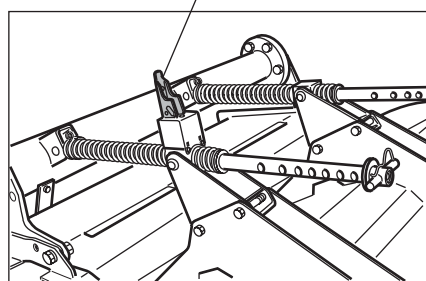
ロック解除状態



③ 両手でエプロンを持ち上げ、はね上げロックレバーが垂直に立った状態で自動ロックしたことを確認してください。

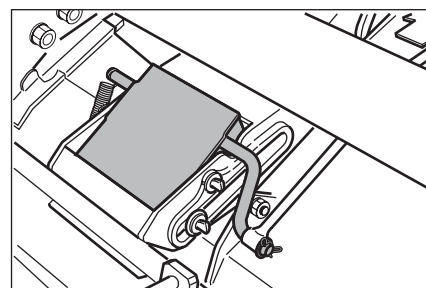


はね上げロックレバー



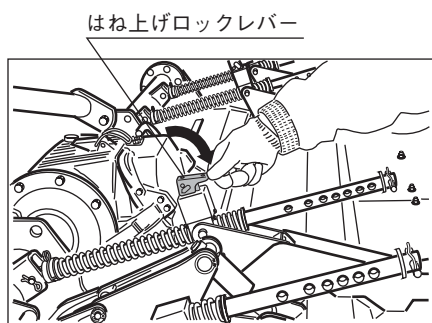
※エプロンを持ち上げていくと、ロック部品が自動的にロック待機状態になります。正常な動作であり、故障ではありません。

ロック待機状態

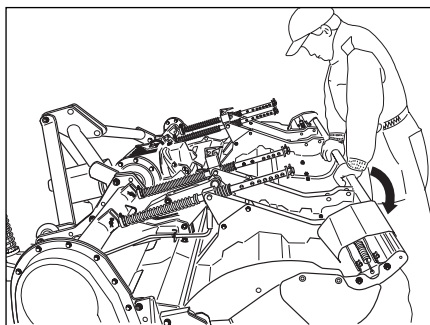


2. エプロン下ろし操作

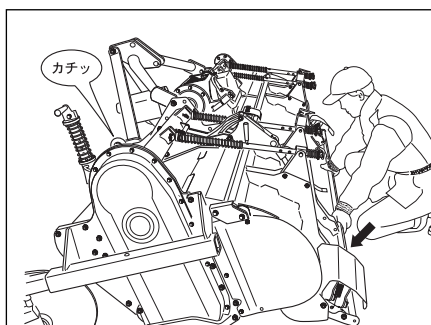
- ① 2ヶ所のはね上げロックレバーを倒します。



- ② エプロンを少し持ち上げ、はね上げロックを解除し、ゆっくりとエプロンを下へ降ろします。

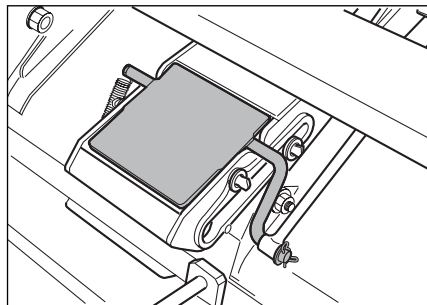


- ③ エプロンを下まで下ろしたのち、待機状態にあるアシスト装置のロックが「カチッ」と音がし、ロック状態になるまでエプロンを押し下げてください。

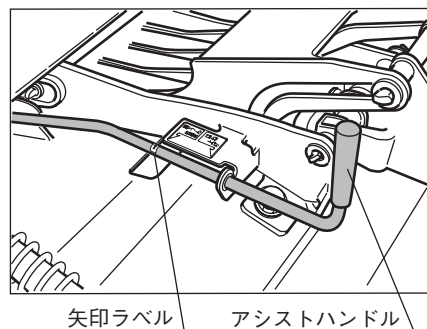


ロックが正常に掛かっている場合は、ロック部品が下図のように閉じた状態になっています。

ロック状態



このときアシストハンドルの矢印ラベルが「耕うん位置」を指しています。

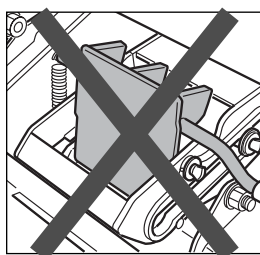


取扱上の注意

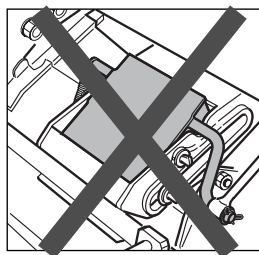
1. エプロンのはね上げ作業を途中で止め、エプロンを下ろした場合などは、1-③のロック待機状態への自動移行が行われなため、エプロンを押し下げてもロックが掛かりません。
この場合はアシストハンドルを奥に押し、ロック待機状態にしたのち、エプロンを押し下げ、ロックを掛けてください。
2. エプロンをはね上げ、下ろした後は、カバーゴムが爪に巻き込まれた状態になることがあります。
この場合、爪軸を正転させることにより、カバーゴムの巻込みを解消してください。
3. アシスト装置のロックが入っていない状態での耕うん作業は、行わないでください。
【守らないと】 機械が破損します。

耕うん作業不可

ロック解除状態

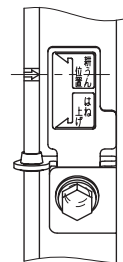
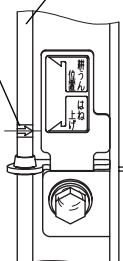


ロック待機状態



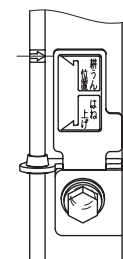
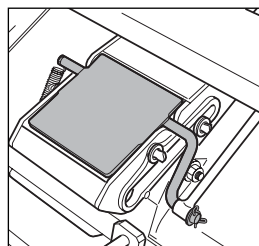
矢印ラベル

アシストハンドル



耕うん作業可能

ロック状態



サイドディスクの取扱方法

このサイドディスクの役割は

- 耕深を深くするための補助
- 残渣の前処理
- 畦際の残耕処理・畦削り作業

があります。

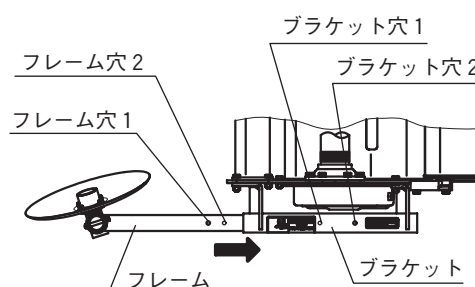
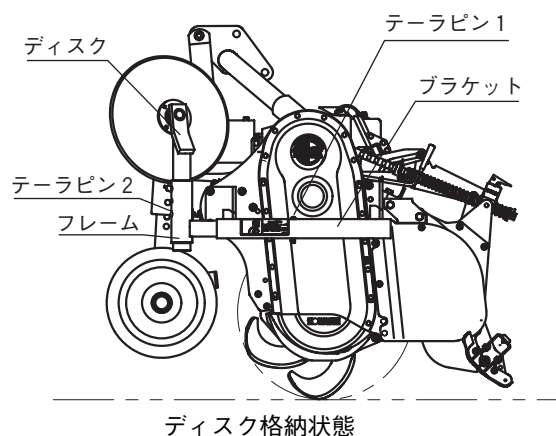
各作業により、サイドディスクの取付位置が異なりますので、下記の内容に従いディスクの取付を行ってください。

▲ 注意

サイドディスクの縁は特に使用するほどに鋭利になります。調節するには十分気をつけて手を切らないよう手袋をして作業してください。

取扱上の注意

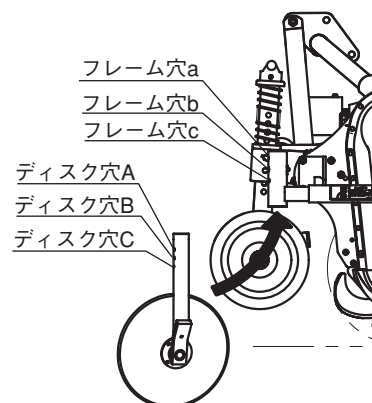
1. 最初の装着時や調節時には、油圧をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
2. ローターをトラクタに着脱する際は、ディスクが地面と接触しディスク部にローター重量がかかり破損する恐れがありますので、ディスクを格納位置にするか、ディスクを取外して着脱を行ってください。
3. 本機はエプロンをはね上げた状態での作業が行えない為、サイドディスクを作業機後方へ取付けての作業には使用しないでください。
4. 破損防止のため水分の多い状態の圃場、特に水をはったような状態での耕うん作業を行う場合には、ディスク部を外してください。



1. 調整方法

① フレームの調整

フレームの標準取付位置はブラケット穴 1 とフレーム穴 1 を使用します。穴位置を合わせて、テーラピン 1 で固定してください。ディスクと作業機の間に藁等が詰まる場合は、フレーム穴 2 を使用してフレームを前方に出してください。



②-1 ディスク深さの調整（耕深確保の補助、残渣の前処理）

フレーム穴 a, b 使用（c 穴使用不可）

ディスクの標準取付位置は、フレーム穴 b(中穴) とディスク穴 B(中穴) を使用します。

穴位置を合わせて、テラピン 2 で固定してください。作業条件によりディスクが土中深く入りすぎる場合は、ディスク取付位置を上を上げてください。

目安として、ディスクが土中へ10cm以上深く入らないようにしてください。

取扱上の注意

ディスクを土中に深く入れすぎて作業を行うと、ディスク部に過大な負荷がかかり破損するおそれがあります。

また、作業速度が速すぎる場合もディスクに過大な負荷がかかります。作業速度の目安は3 km/h以下です。

作業速度が速い場合は、ディスク深さを浅めにして使用してください。

②-2 ディスク深さの調整（畦際の残耕処理、畦削り）

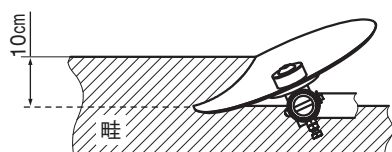
フレーム穴 c 使用

ディスクの標準取付位置は、フレーム穴 c(下穴) とディスク穴 B(中穴) を使用します。

穴位置を合わせて、テラピン 2 で固定してください。

作業条件によりディスク穴 A、B、C を使用してディスク高さを調節してください。畦削り作業をする場合、ディスクが畦に入り過ぎないように注意してください。

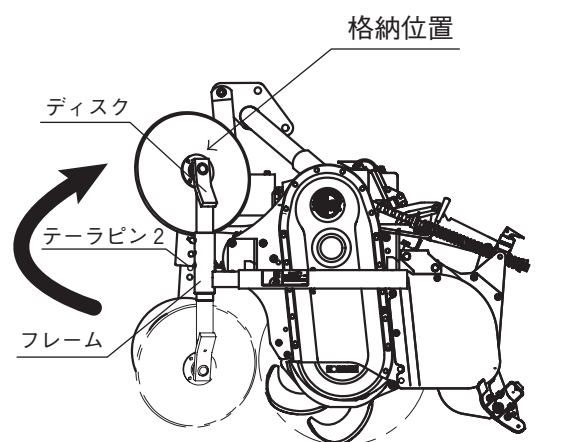
目安は10cm程度です。



取扱上の注意

1. サイドディスクでコンクリート畦の残耕処理を行うと、ディスクがコンクリート畦に引っ掛り、ディスクを破損する恐れがありますので使用しないでください。
2. 畦際の残耕処理及び畦削り作業を行う場合は、トラクタ車速を十分下げて作業を行ってください。ディスク部に過大な負荷がかかり破損の原因となります。作業速度の目安は1.0 km/h 以下です。
3. 畦削り作業は、土質・削り量等によりディスク部に過大な負荷がかかる場合があります。負荷が大きい場合は、ディスクを上げる、削り幅を小さくする、車速を落とす等、負荷を低減させて作業を行ってください。

2. 格納方法



- ① テラピン 2 を抜きディスクを外してください。
- ② ディスクを上方からフレームに取付けてください。
この時、ディスクの背面が外側に向くように取付けてください。（図の向き）
- ③ フレーム穴 c(下穴)とディスク穴C(下穴)を使用し穴位置を合わせて、テラピン 2 で固定してください。

3. 作業時の注意

以下のような条件では外した方が良いことがあります。

- 大豆跡などのうねが残っている圃場ではディスクがうねに掛かったときにローターが傾く場合があります。
- 粘土質で乾いた硬い圃場ではディスクが刺さらず、ローターが傾く場合があります。
- ディスクが大きな土塊を抱えてしまう場合は、ディスクが回らなくなることがあります。

耕うん爪の取付方法

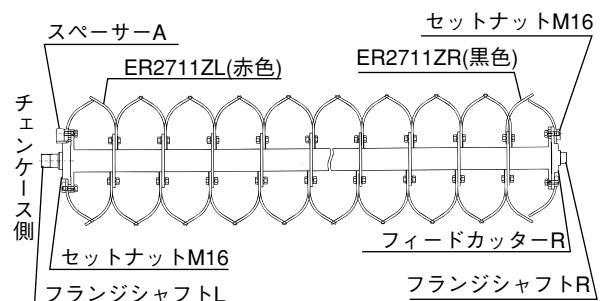
▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした所で行ってください。
2. トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
3. エプロンもしっかりと固定して落下しないようにしてから行ってください。
4. ボルト、ナットを緩めたり、締め付ける場合は、メガネレンチが確実に入った状態で作業してください。
5. 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

◆コバシ純正爪ER2711Zは、R爪を黒色、L爪を赤色で塗装しています。

1. 爪配列

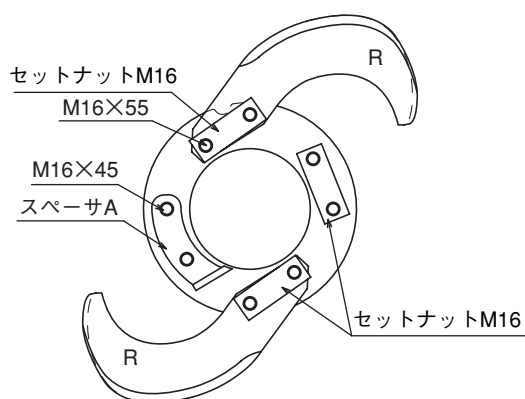
爪配列はらせん配列になります。



- ◆爪の交換は、一度に全部外して交換するのではなく、一本ずつ外して同じ形状刻印の爪を取付けていくと、配列の誤りはなくなります。
- ◆爪が摩耗してきますと、作業状態が悪くなってきます。早めに交換してください。
- ◆本ローターにはコバシ純正爪ER2711Z以外の爪は装着できません。
指定外の爪を装着された場合、性能低下、ゴム破損の恐れがあります。

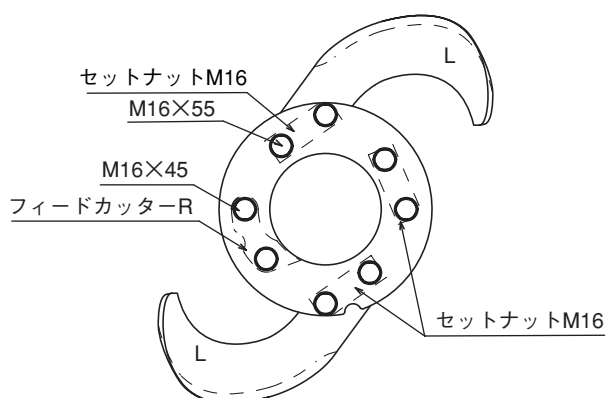
2. 左端フランジへの取付け

ER2711 R（黒色）2本をフランジの外側に内向きに取付けてください。この場合、フランジ側からボルトとSワッシャを入れ、爪をはさんでセットナットM16で固定します。



3. 右端フランジへの取付け

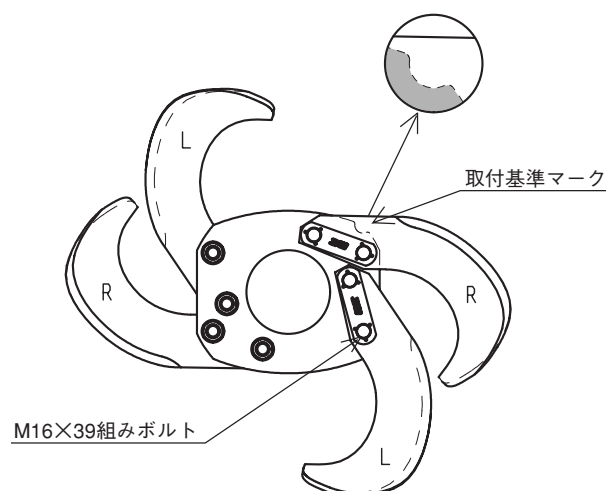
ER2711 L（赤色）2本をフランジの外側に内向きに取付けてください。この場合、フランジ側からボルトとSワッシャを入れ、爪をはさんでセットナットM16で固定します。



4. 中間フランジへの取付け

型式（耕幅）によってフランジの数異なります。

取付基準穴のところにR爪をフランジの左側に取付けます。



取扱上の注意

1. 爪の配列を誤りますと、異常な振動が発生したり、仕上がりが悪くなったりしますので注意してください。
2. 爪はしっかりと締め付けてください。

[締付けトルク156.8～192.0 N・m (1,600～1,960kgf・cm)]

新しく交換した場合は、緩みやすいので作業1時間で増し締めをしてください。

5. 耕うん爪及び取付ボルト本数

型 式	耕うん爪		取付ボルト (P1.5 8T)						
	ER2711Z		M16×39 組BT	M16 NT SW	M16×55 BT SW	セットナット M16	M16×45 BT SW	フィード カッター R	スペーサ A
	右 (R)	左 (L)							
FTV 240	24	24	44	88	8	6	8	1	1
FTV 260	26	26	48	96	8	6	8	1	1
FTV 280	28	28	52	104	8	6	8	1	1

保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

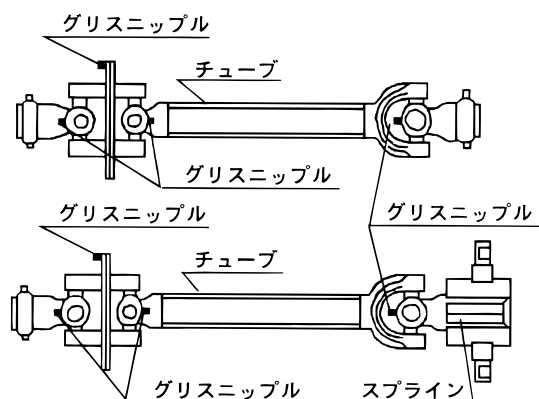
▲ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機を地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

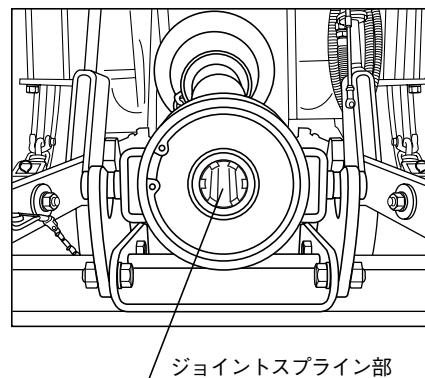
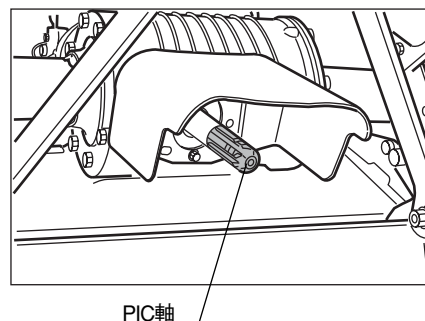
2. グリスの給油

- ① ジョイントは分解して、スリーブのかみ合い部分にグリスを塗布してください。
また、同時にグリスニップルの部分にも適量注入してください。
- ② トラクタのPTO軸と作業機のPIC軸へもグリスを塗布し、格納する場合はキャップをかぶせて、サビないようにしてください。

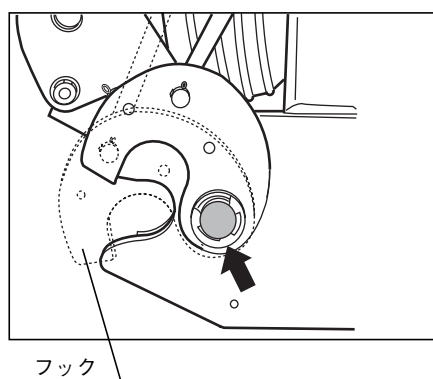
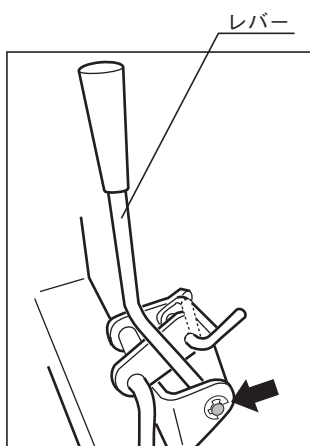


取扱上の注意

特に4セットジョイントの場合は、スプライン部がサビたりキズついたりしますと、装着ができなくなりますので、必ず掃除を行いグリスを塗布し、ゴミがかからないようにしてください。



- ③ オートヒッチアームのレバー及びフックの支点部分にオイルを適量塗布してください



3. 給油と交換

下記の基準で実施してください。

点 検 項 目	種類	オイル 量	点検・交換 時 間
ギヤークースの オイル量点検			毎 作 業 前
チェンケースの オイル量点検			〃
サポートハウジング のオイル量点検			〃
ギヤークースの オイル交換	#90	3.5 ℓ	初期 50時間 その後150時間
チェンケースの オイル交換	#90	4.0 ℓ	〃
サポートハウジング のオイル交換	#90	0.1 ℓ	〃

グリースは、日本石油エピノック 2 番又は同等品
(リチウムグリース) を使用してください。

取扱上の注意

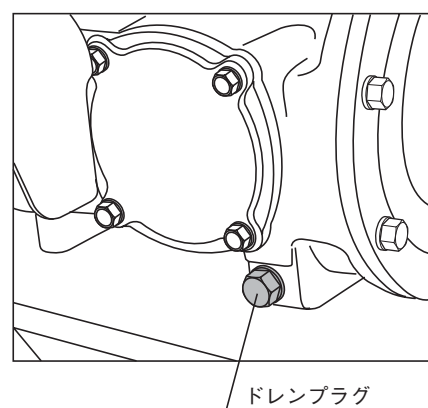
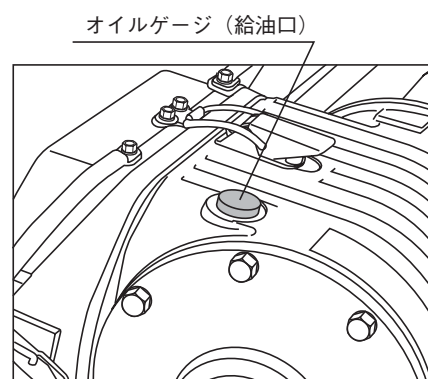
オイル量の点検は作業機のPIC軸を水平に
して行ってください。

作業機が傾いていると正確な量を示さない
ことがあります。

① ギヤークースへの給油と交換

ドレンボルトを外してオイルを出します。

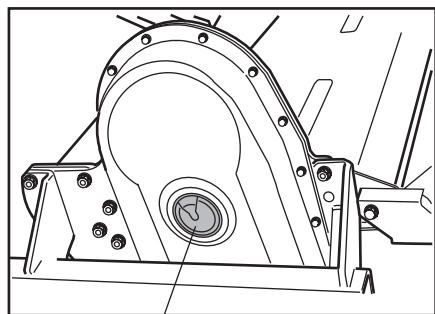
ギヤース油90番を給油口から規定量まで入
れてください。(3.5 ℓ)



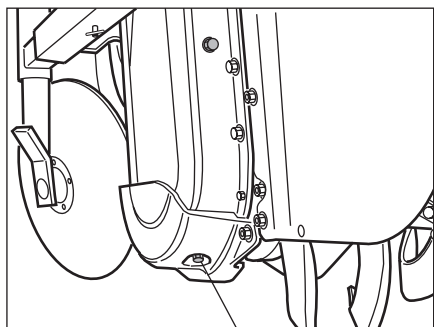
① チェンケースへの給油と交換

チェンケースシューズを外し、ドレンボルトを外してオイルを出します。

ギヤーオイル90番を給油口から規定量まで入れてください。（4.0ℓ）



給油口

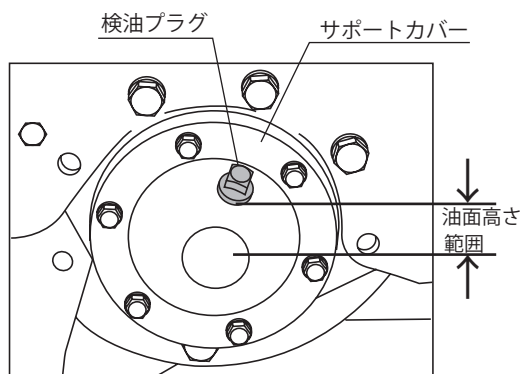


ドレンボルト

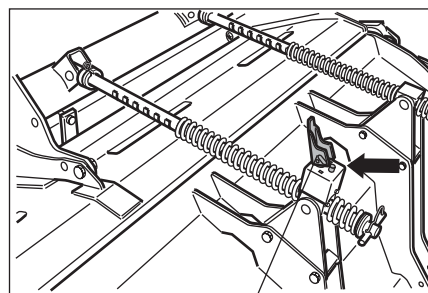
② サポートハウジングへの給油と交換

サポートシューズを外し、サポートカバーを外してオイルを出します。

オイルが抜けたらカバーをしてギヤーオイルを給油口から規定量（0.1ℓ）入れてください。

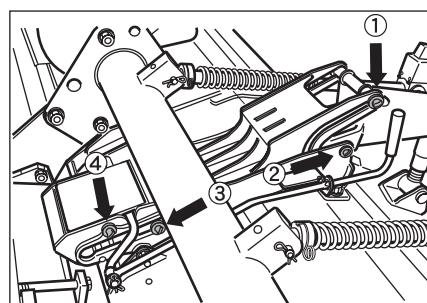


- ④ エプロンはね上げロックレバーへのグリス塗布
エプロンはね上げロックレバーへは定期的にグリスを塗布してください。



はね上げロックレバー

- ⑤ クイックアシストへのグリス塗布
クイックアシストのリンク各部ピン、長穴回りの摺動部（下図矢印①～④）へは使用時ごとにグリスを塗布してください。



4. エプロンのはね上げ

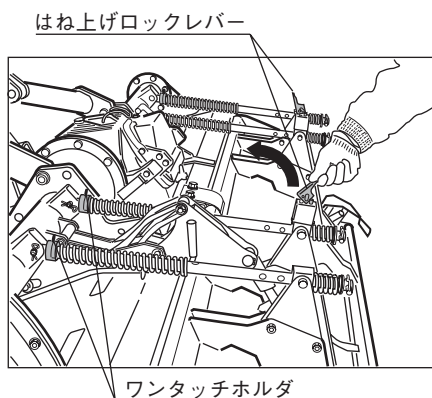
エプロンをはね上げて逆転PTOによる土落としをする場合や、爪交換などメンテナンス作業の時に、エプロンをはね上げ自動ロックすることができます。

- クイックアシストによるエプロンのはね上げ
クイックアシストの操作方法は、P27～30を参照してください。
- クイックアシストによらないエプロンのはね上げ

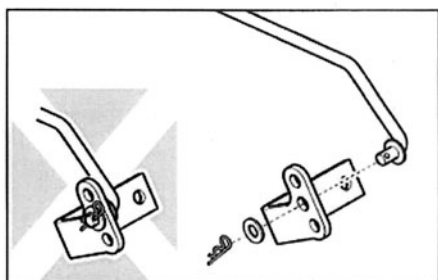
▲ 注意

クイックアシストによらないエプロンのはね上げを行う場合、アシストハンドル等の周辺部品には触れないでください。

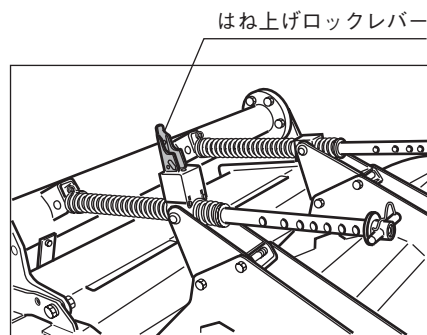
- ① ワンタッチホルダを最上位置まで上げ、2ヶ所のエプロンのはね上げロックレバーをイラストのように起こしてください。



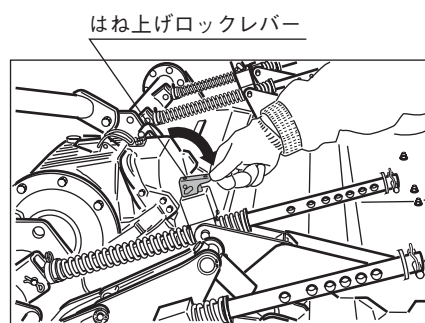
※オートロータリを取り付けている場合は、オートロータリの金具のリンク部分を取外してください。



- ② 両手でエプロンを持ち上げ、はね上げロックレバーが垂直に立った状態で自動ロックしたことを確認してください。

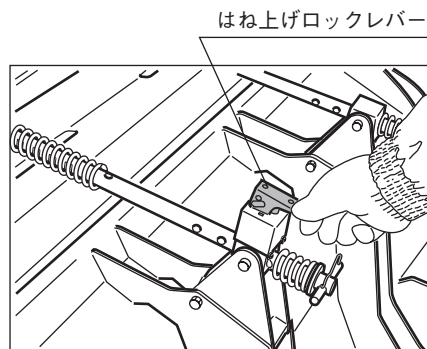


- ③ エプロンを下ろすときは2ヶ所のエプロンのはね上げロックレバーをイラストのように倒してください。次に、エプロンをしっかり支えながらカチッと音がするまでエプロンを持ち上げてから、ゆっくりと下ろしてください。



▲ 注意

エプロンのはね上げロックレバーの操作は、イラストのようにレバーを持ち、指を挟まないようにしてください。



取扱上の注意

部品が破損する恐れがあるのでエプロンをはね上げた状態で耕うん作業、路上走行は行わないでください。

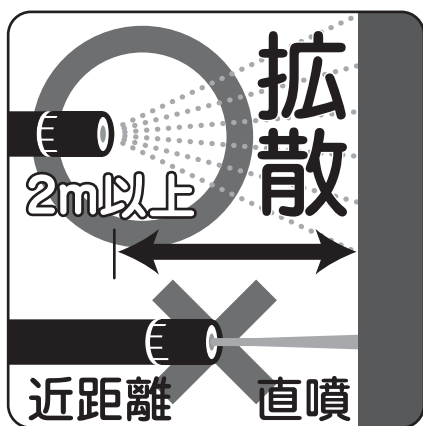
5. 洗車時の注意

高压洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させたりすることがありますので、高压洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

▲ 注意（高压洗車機）

機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

- 例
- 1) シール・ラベルの剥がれ
 - 2) 樹脂類（カバーなど）の破損
 - 3) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



6. カバーゴムの土の落とし方

本作業機のカバーゴムは、土が付着しにくい構造ですが、もし土が付着した場合は、土が乾いてから先の丸い棒等でたたいて土を落としてください。

取扱上の注意

先端が鋭利な棒等は、絶対使わないでください。ゴムが損傷する恐れがあります。

7. フローティングシールの保守

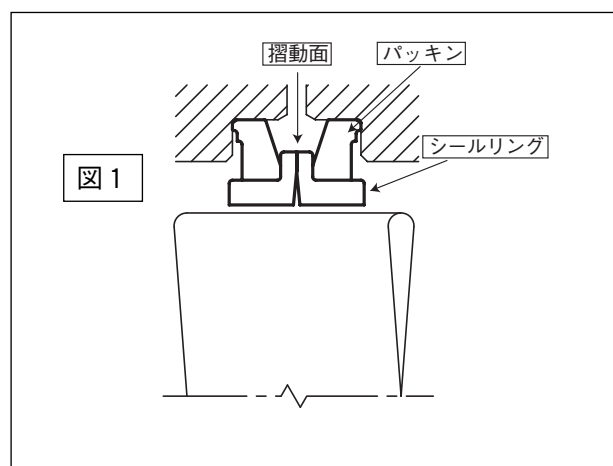
耕うん軸のシールに使用されているフローティングシールの固着を防ぐために使用しない時期でも1ヶ月に1回程度の割合で、耕うん軸を手でゆっくり廻してシール面にオイルを馴染ませてください。

8. フローティングシールの組み替え

耕うん軸のシールに使用されているフローティングシールの組み替えは、必ず別売のメンテナンスキット（部品コード：D020007）を用いて行ってください。

① フローティングシールの構造

- ・フローティングシールの断面形状は図1のようになっています。
- ・フローティングシールは、一対の対称形状のシールリング（鋳鉄製）とパッキン（ゴム製）から構成されています。左右は全く同じ形状であり、どちらに使用しても問題ありません。
- ・シールリングとパッキン各2ヶで1セットです。



② フローティングシール組込み前の点検

▲ 注意

1. フローティングシールの点検は、組立作業の直前に行ってください。
2. フローティングシールを取扱う時は軍手等を使用せず、きれいに洗った乾いた素手または薄いゴム手袋で行ってください。
3. 取扱中に誤ってシールリングに打痕が付いた可能性のあるフローティングシールは使用しないでください。
4. メンテナンス等でフローティングシールを分解した場合は、必ず新品に交換してください。

【守らないと】

油モレが発生する可能性があります。

(1) シール組込工具の点検

シール組込工具に鉄粉、土砂、塗料等の異物が付着していないか確認し、異物が付着している場合は、圧縮空気で除去するか、きれいなウエスで拭き取ってください。

(2) シール組込溝（チェンケースプレート、耕うんフランジシャフトL）の点検

シール組込溝にバリやカエリ、ゴミ等が無いことを確認してください。バリやカエリがある場合は、シールを破損させる原因になりますので、サンドペーパー等で軽くこすって除去してください。

(3) フローティングシールの点検

- ・フローティングシールに傷や大きい欠けが無いか確認してください。万一、傷や大きい欠けがある場合は、使用しないでください。
- ・摺動面に錆が発生していないか確認を行ってください。錆が発生しているフローティングシールは使用しないでください。

③ フローティングシールの組込み

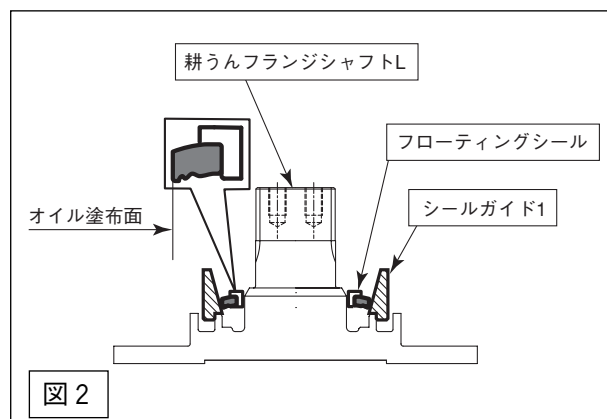
※文中のシールガイド1・2、押込み金具は別売のメンテナンスキット（部品コード：D020007）同梱品です。

○耕うんフランジシャフトLへの組込み

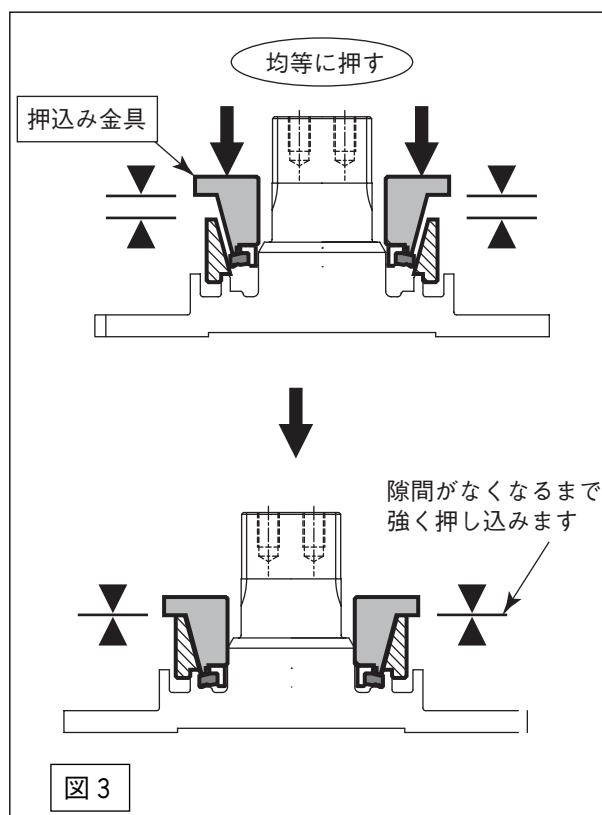
- (1) 耕うんフランジシャフトLにシールガイド1をセットします。挿入性を高めるため、シールの外周面に薄くオイル（#90）を塗布し、シールガイド1にセット（図2）します。この時フローティングシールに大きな傾きが無いように注意してください。

▲ 注意

1. 潤滑剤はギヤーオイル#90を使用してください。（グリース不可）
2. 潤滑剤塗布後は異物が付着しないように注意してください。



- (2) 押込み金具をシールに当て、そのままシールガイド1に当たるまで手で強く押込みます。
(図3)



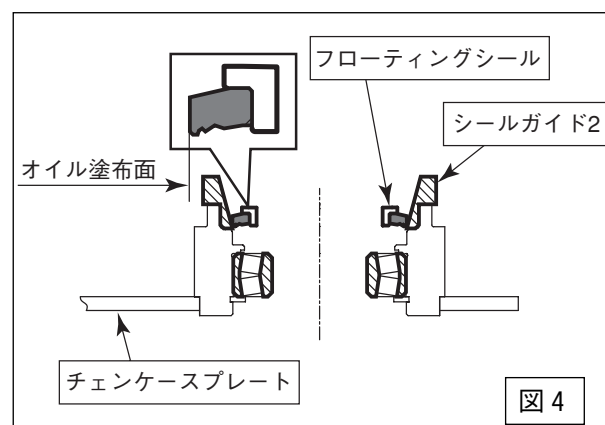
- (3) 押込み金具とシールガイド1を取り外し、フローティングシールに捻れや浮き上がりが無いか確認してください。

○チェーンケースプレートへの組込み

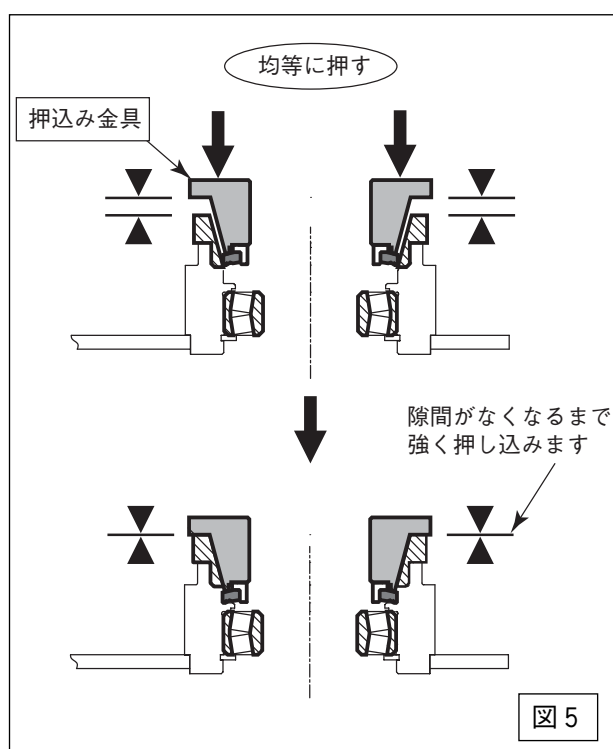
- (1) チェーンケースプレートにシールドガイド2をセットします。挿入性を高めるため、シールの外周面に薄くオイル（#90）を塗布し、シールドガイド2にセット（図4）します。この時フローティングシールに大きな傾きが無いように注意してください。

▲ 注意

1. 潤滑剤はギヤーオイル#90を使用してください。（グリース不可）
2. 潤滑剤塗布後は異物が付着しないよう注意してください。



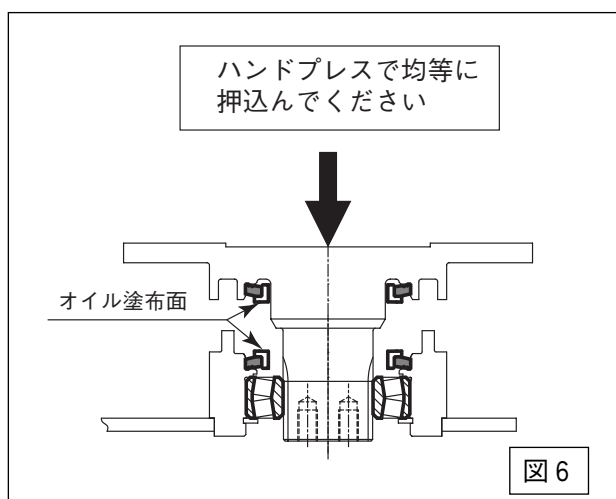
- (2) 押込み金具をシールに当て、そのままシールガイド2に当たるまで手で強く押込みます。（図5）



- (3) 押込み金具とシールガイド2を取り外し、フローティングシールに捻れや浮き上がりが無いか確認してください。摺動面に錆が発生していないか確認を行ってください。錆が発生しているフローティングシールは使用しないでください。

○耕うんフランジシャフトLとチェンケースプレートの組み込み

- (1) チェンケースプレートと、耕うんフランジシャフトLに組み込んだフローティング摺動面とシャフトに、ギヤオイル（#90）を薄く塗布してください。（図6）この時、フローティングシールに細かいゴミが付着しないように注意してください。
- (2) チェンケースプレートを下にして平坦な台に置き、フローティングシール同士が向き合うように上から耕うんフランジシャフトLをハンドプレス等で組付けてください。（図6）この時、ハンマー等を使用して叩き込まないでください。フローティングシールが損傷しオイル漏れの原因となります。



▲ 注意

ハンマー等で叩き込まないでください。フローティングシールが損傷し、オイル漏れの原因になる恐れがあります。

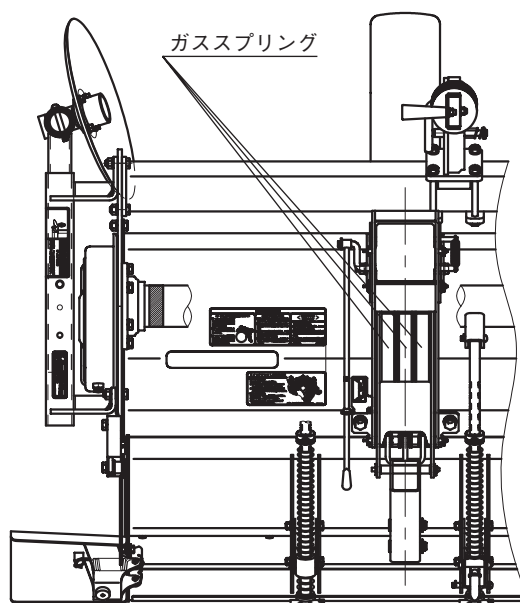
④ フローティングシール交換後の注意事項

- (1) チェンケースにオイルを入れた後、耕うん軸を数回手回しさせてください。（手回することで、フローティングシールにオイルが行き渡り、潤滑を助ける効果があります）
- (2) この時トルクが異常に高くなっていないことを確認してください。

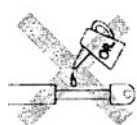
9. オイルシール等の組み替え

整備などの目的でチェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、パッキン、液状ガスケットと交換してください。オイルもれの原因になります。液状ガスケットはスリーボンド1208相当品を使用してください。

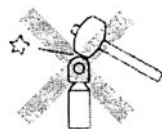
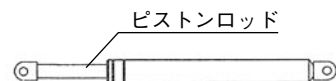
10. ガススプリングの取扱い



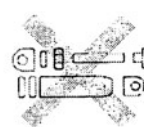
取扱上の注意



ガススプリングのピストンロッドに注油はいっさい不要です。注油するとシールの耐久性をなくし油洩れの原因となります。



衝撃を加えることは絶対に避けてください。油洩れ、作動不良、破損の原因になります。



分解することは絶対にさけてください。高圧ガスが封入されていますので分解すると非常に危険です。

廃却方法

機械から取り外した上で、以下の手順で廃却作業を行なってください。

⚠ 危険

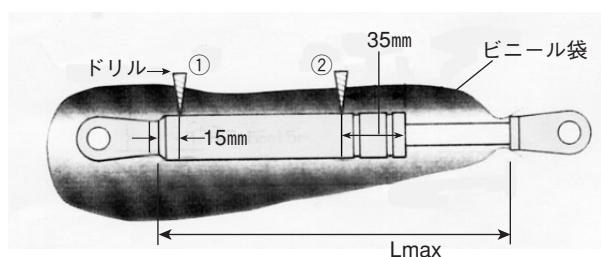
廃却する際は、次の注意を守ってください。
この製品は、窒素ガスが高圧で封入してあるため、ガスを抜かずに処理をすると、爆発により怪我をすることがあります。

【注意事項】

1. 押しつぶさない。
2. 切断しない。
3. 図以外の場所に孔を開けない。
4. 火に入れない。

【廃却の手順】

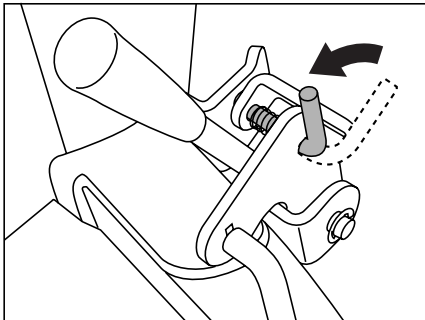
1. ビニール袋をかぶせ、その上から2～3 mm のドリルで①の孔を開け、ガス・油を抜いた後②の孔を開けてください。
(必ず①②の順番を守ってください。)
2. ビニール袋を使用しない場合は、油や切粉が飛びますので十分注意してください。
(この場合メガネをかけて作業してください。)



- 上図の要領で孔を開けガス抜きをしてから廃却してください。

保管・格納

1. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
2. ジョイントは必ずチューブのオス側とメス側をいっぱいまで差し込んだ状態で保管してください。
3. 格納後はみだりに子供等が触れないような処置をしてください。
4. オートヒッチを作業機に取付けて保管する場合は、レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に挿入して、不用意にオートヒッチが外れないように確実にロックしてください。



主要諸元 (T-OL・3L)

型 式		FTV240T—0L	FTV260T—0L	FTV280T—0L
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1315		
	全 幅 (mm)	2720	2920	3120
	全 高 (mm)	1170		
機 体 質 量 (kg)		788	817	847
適 応 ト ラ ク タ	(KW)	47.8～83.2	58.9～83.2	66.2～83.2
	(PS)	65～113	80～113	90～113
標 準 耕 幅 (cm)		240	260	280
標 準 耕 深 (cm)		12～18		
標 準 作 業 速 度 (km/h)		2.0～3.0		
耕 う ん 作 業 能 率 (分/10a)		12～17	11～16	10～15
耕 う ん 爪	本 数 (左・右)	24・24	26・26	28・28
	回 転 外 径 (cm)	55		
	取 付 方 法	フ ラ ン ジ タ イ プ		
駆 動 方 法		サ イ ド ド ラ イ ブ		
入 力 軸 回 転 速 度 (r.p.m)		540		
装 着 方 法		標準 3 点リンクオートヒッチ (日農工規格 L) JIS II 型		
耕 深 調 節		前ゲージ輪・オートロータリ (オプション)		

型 式		FTV240T—3L	FTV260T—3L	FTV280T—3L
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1365		
	全 幅 (mm)	2720	2920	3120
	全 高 (mm)	1420		
機 体 質 量 (kg)		845	874	904
適 応 ト ラ ク タ	(KW)	47.8～83.2	58.9～83.2	66.2～83.2
	(PS)	65～113	80～113	90～113
標 準 耕 幅 (cm)		240	260	280
標 準 耕 深 (cm)		12～18		
標 準 作 業 速 度 (km/h)		2.0～3.0		
耕 う ん 作 業 能 率 (分/10a)		12～17	11～16	10～15
耕 う ん 爪	本 数 (左・右)	24・24	26・26	28・28
	回 転 外 径 (cm)	55		
	取 付 方 法	フ ラ ン ジ タ イ プ		
駆 動 方 法		サ イ ド ド ラ イ ブ		
入 力 軸 回 転 速 度 (r.p.m)		540		
装 着 方 法		標準 3 点リンクオートヒッチ (日農工規格 L) JIS II 型		
耕 深 調 節		前ゲージ輪・オートロータリ (オプション)		

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

主要諸元 (T-4L)

型 式		FTV240T-4L	FTV260T-4L	FTV280T-4L
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1365		
	全 幅 (mm)	2720	2920	3120
	全 高 (mm)	1420		
機 体 質 量 (kg)		852	881	911
適 応 ト ラ ク タ	(KW)	47.8~83.2	58.9~83.2	66.2~83.2
	(PS)	65~113	80~113	90~113
標 準 耕 幅 (cm)		240	260	280
標 準 耕 深 (cm)		12~18		
標 準 作 業 速 度 (km/h)		2.0~3.0		
耕 う ん 作 業 能 率 (分/10a)		12~17	11~16	10~15
耕 う ん 爪	本 数 (左・右)	24・24	26・26	28・28
	回 転 外 径 (cm)	55		
	取 付 方 法	フ ラ ン ジ タ イ プ		
駆 動 方 法		サ イ ド ド ラ イ ブ		
入 力 軸 回 転 速 度 (r.p.m)		540		
装 着 方 法		標準 3 点リンクオートヒッチ (日農工規格 L) JIS II 型		
耕 深 調 節		前ゲージ輪・オートロータリ (オプション)		

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

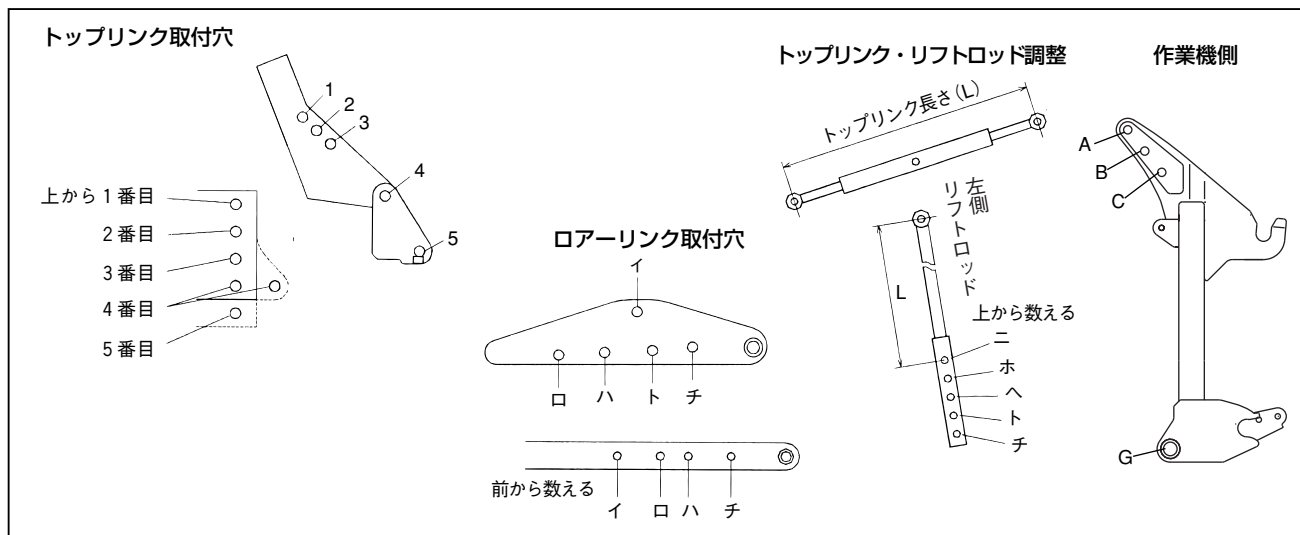
トラクタ別装着表 (T-4L, 3L)

※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。
また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

▲ 注意

装着表記載の寸法からトップリンク長等変更される場合は、作業機を上下させてジョイントの抜け・突きがないことを十分確認してから作業を行ってください。

ジョイントの抜け・突きがある場合は、ジョイントの切断・変更等して作業してください。



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
MZ 655・705・755 MZ 65・70・75	4	イ	へ	570	B	G		30	ロアピン内向き
MZ 655PC・755PC MZ 65PC・75PC	4	イ	へ	570	B	G		30	ロアピン内向き
SMZ 805・875・955 SMZ 76・85・95	4	イ	へ L=617	610	B	G			
SMZ 805PC・875PC・955PC SMZ 76PC・85PC・95PC	4	イ	へ L=617	610	B	G			
M 100G・110G	3	ロ	ホ L=710	675	A	G	KGC84M に交換		
M 110G-PC	3	ロ	ホ L=710	675	A	G	KGC84M に交換		
M 90A・100A・110A M 85D・95D・105D M 90・100 MD 77・87・97・107 M1-85・100	2	ロ	L=615	695	A	G	KGC84M に交換		
M 110A-PC M 105D-PC M 90-PC・100-PC MD 77-PC・87-PC・97-PC	2	ロ	L=615	695	A	G	KGC84M に交換		
M 108W	3	ロ	L=575	660	A	G			
M 72W	3	イ	L=480	630	A	G		30	
GM 73	4	イ	へ	600	A	G		30	ロアピン内向き
GM 73PC	4	イ	へ	575	A	G	20	30	ロアピン内向き
GM 75D・82D・90D GM 75・82・90	5	ロ	ニ	630	A	G			
GM 75PC・90PC	5	ロ	ニ	630	A	G			
M 6830	4	イ	L=540	600	A	G	30	30	
M 8230・9030	3	ロ	L=600	610	A	G			
M 6970・7970 M 6950・7950	2	イ	L=600	650	A	G	KGC84M に交換		
M 9570 M 9550	2	イ	L=600	650	A	G	KGC84M に交換		

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4L	3L	
							KGC79M に交換	KGC80	
M 10570	2	イ	L=630	730	A	G	KGC84M に交換		
M 7530・8030	3	イ	L=610	650	A	G			
M1-65	3	イ	L=540	610	A	G		30	
M1-75	3	ロ	L=615	670	A	G			
KG 1000	2	イ	ニ	660	B	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	三菱農機OEM GCR100
KG 65・75	3	イ	ホ	610	C	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	三菱農機OEM MKM65・75
KG 85・100	3	イ	ニ	680	B	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	三菱農機OEM MKM85・100
KM 70	2	ロ	ニ L=725	600	C	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK60S
MK 80SK・100SK KM 90D・100D	2	ロ	ニ L=725	620	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK80S・100S
MK 70K・80K・90K	2	ロ	ホ L=725	620	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK 70(96)・ 80(96)・90(96)
MK 100K(96)・110K	2	イ	ホ L=725	670	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK 100(96)
MK 100K	2	ロ	ニ L=675	680	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK 100(94)
EG 65・665 EF 665 JD1630	5	イ	ヘ	630	C	G			
EG 65C	5	イ	ホ	550	C	G			
EG 76・83 EG 765・775・782	4	ロ	ヘ	610	A	G			
EG97・105 EF880・890・895 AF 865・875・880・890	3	イ	ニ	630	A	G			
EG97C・105C	3	イ	ニ	630	A	G			
CT 652 CT 651	4	ロ	ヘ	540	A	G			
CT 1010 CT 801・1001	3	ロ	ホ	590	A	G			
AF 665	4	イ	ヘ	590	A	G			
AF 720	2	イ	L=570	590	A	G			
PF 82・92	3	ロ	ヘ	600	A	G	40	50	
F 705・805・905	2	ロ	ヘ L=690	600	A	G	40	40	芝浦OEM V70・80・90
F 70	2	ロ	L=530	620	A	G	40	50	ジョイント 異音時PTO切
F 80・97	2	ロ	L=600	655	A	G			
CT 650・750	3	ロ	ホ	590	A	G			
CT 850・950・1050 CT 800・900・1000	3	ロ	ホ	590	A	G			
CT 65・75	3	イ	ニ L=640	560	B	G			
CT 80(A)・85・95(A)	3	イ	ニ L=640	595	A	G			
CT 65H・75H	3	イ	ホ	520	A	G			井関農機OEM TJ65C・75C
CT 85H	3	イ	ホ	540	A	G			井関農機OEM TJ85C
TJV68・75	3	ロ	ホ	550	A	G			TJV75は ZWX仕様のみ
TJV 68C・75C	3	ロ	ヘ	550	A	G			
TJV 75・85・95(ZLWX)	3	ロ	ホ	600	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
TJV 75・85・95(GLWX)	4	□	へ	640	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	クイックヒッチ タイプのトップリン ク・ロアーリンク 水平制御付
TJV 85・95(GLWD)	4	□	L=550	640	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	クイックヒッチ タイプのトップリン ク・ロアーリンク 水平制御なし
TJV 85C・95C(ZLWX)	3	□	へ	590	A	G			
TJV 85C・95C(GLWX)	4	□	へ	620	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	クイックヒッチ タイプのトップリン ク・ロアーリンク 水平制御付
TJX 77・87・97(WX)	3	□	ホ	590	A	G			
TJX 77・87・97(WX以外)	4	□	L=570	640	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	クイックヒッチ タイプのトップリン ク・ロアーリンク 水平制御なし
TJW 107	3	□	ホ	620	A	G			
TJW 107C	3	□	ホ	620	A	G			
TJ 65・75	3	イ	ホ	520	A	G			
TJ 65C・75C	3	イ	ホ	520	A	G			
TJ 85	3	イ	ホ	540	A	G			
TJ 85C	3	イ	ホ	540	A	G			
TJW 95・105	3	□	二	650	A	G			
TJW 95C・105C	3	□	二	650	A	G			
T 7085・7095・7105	4	イ	L=690	640	A	G		30	MASSEY FERGU- SON OEM MF6445・6455・ 6460
T 7110	4	イ	L=720	680	A	G			MASSEY FERGU- SON OEM MF6465
T 7110V	3	イ	L=690	680	A	G	KGC84M に交換		MASSEY FERGU- SON OEM MF7465
T 5085・5095・5110	4	イ	L=690	620	A	G	20	30	MASSEY FERGU- SON OEM MF5445・5455・ 5465
T 750・850・950 T 751・851・951	3	イ	L=745	760	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	MASSEY FERGU- SON OEM MF4235・4245・ 4255
T 855	4	イ	L=700	640	A	G			MASSEY FERGU- SON OEM MF6245
T 1101 T 1100	3	イ	L=750	790	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	MASSEY FERGU- SON OEM MF4270
T 1055	4	イ	L=720	660	A	G			MASSEY FERGU- SON OEM MF6260
T 883	3	□	L=680	680	A	G			MASSEY FERGU- SON OEM MF6130
T 953・1053	3	□	L=720	680	A	G			MASSEY FERGU- SON OEM MF6150・6160
T 88	3	イ	L=640	690	A	G			MASSEY FERGU- SON OEM MF3065新
T 105	3	イ	L=670	690	A	G			MASSEY FERGU- SON OEM MF3085

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
T 70	3	イ	L=620	680	A	G	KGC84M に交換		MASSEY FERGU- SON OEM MF362
T 80・98	3	ハ	L=710	730	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	MASSEY FERGU- SON OEM MF382・396
T 72・82 T 7020・7010	2	ロ	ニ L=715	630	B	G			
T 7020A	2	ロ	ニ L=635	625	B	G			
T 82-10・82-21	2	ロ	ニ L=760	670	A	G			
T 885WX・985WX	4	ロ	ホ	685	A	G			
T 1085WX	4	ロ	ホ	730	A	G			
T 725・825H	2	ロ	ニ L=675	630	A	G			キャビン仕様は 要上昇規制 ジョイント異音時 PTO切
T 825G・885・985 T 8020・9520 T 8010・9510	2	ロ	ホ L=795	650	A	G			
T 1085 T 10520・10510	2	ロ	ホ L=795	710	A	G			
TA-C657 TA-C655	4	ロ	ヘ	540	A	G			ヤンマー OEM CT652・651
TA-C805・1005	3	ロ	ホ	590	A	G			ヤンマー OEM CT801・1001
TA-C653・753	3	イ	ニ	640	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	三菱農機 OEM GCR65・75
TA-C853・1003	2	イ	ニ	660	B	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	三菱農機 OEM GCR85・100
TA-C65・75	3	イ	ホ	610	C	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	三菱農機 OEM MKM65・75
TA-C85・100	3	イ	ニ	680	B	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	三菱農機 OEM MKM85・100
GV 655・705・755 GV 650・700・750	4	イ	ヘ	570	B	G		30	ロアビン内向き クボタOEM MZ655.705.755 MZ65.70.75
GVK 655・755 GVK 650・750	4	イ	ヘ	570	B	G		30	ロアビン内向き クボタOEM MZ655PC.755PC MZ65PC.75PC
GV 805・875・955 GV 760・850・950	4	イ	ヘ L=617	610	B	G			クボタOEM SMZ805.875.955 SMZ76.85.95
GVK 805・875・955 GVK 760・850・950	4	イ	ヘ L=617	610	B	G			クボタOEM SMZ805PC.875PC .955PC SMZ76PC.85PC .95PC
GR 100G・110G	3	ロ	ホ L=710	675	A	G	KGC84M に交換		クボタOEM M100G・110G
GR 90A・100A・110A GR 850・950・1050 GR 90・100	2	ロ	L=615	695	A	G	KGC84M に交換		クボタOEM M90A.100A.110A M85D・95D・105D M90・100
GV 73	4	イ	ヘ	600	A	G		30	ロアビン内向き クボタOEM GM73
GV 75・82・90	5	ロ	ニ	630	A	G			クボタOEM GM75・82・90
MT 651・751・801・901	3	イ	ニ	630	A	G			ヤンマー-OEM AF865・875・880 AF890
MT 720	2	イ	L=570	590	A	G			ヤンマー-OEM AF720

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
MT 820・920	3	□	へ	600	A	G	40	50	ヤンマーOEM PF82・92
MT 70・80・90	2	□	へ L=690	600	A	G	40	40	芝浦OEM V70・80・90
GCR 651 GCR 650	4	□	へ	540	A	G			ヤンマーOEM CT652・651
GCR 1010 GCR 800・1000	3	□	ホ	590	A	G			ヤンマーOEM CT1010 CT801・1001
GCR 65・75	3	イ	ニ	640	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
GCR 85・100	2	イ	ニ	660	B	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MKM 65・75	3	イ	ホ	610	C	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
MKM 85・100	3	イ	ニ	680	B	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MKM 750X	2	□	ニ L=725	620	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK80S
MKM 750	2	□	ホ L=725	620	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK70(96)
MKM 70(94)	2	□	ニ L=675	670	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK70(94)
MKM 100(94)	2	□	ニ L=675	680	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK100(94)
MKM 70	2	イ	ホ L=725	690	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK70
MKM 100	2	□	ニ L=675	680	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	諸岡OEM MK100
V 70・80 S 480	2	□	へ L=690	600	A	G	40	40	
GX 730	4	イ	へ	600	A	G		30	ロアピン内向き クボタOEM GM73
MK 80S・100S	2	□	ニ L=725	620	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MK 70(96)・80(96)・90(96)	2	□	ホ L=725	620	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MK 100(96)	2	イ	ホ L=725	670	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MK 70(94)・80(94)・90(94)	2	□	ニ L=675	670	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MK 100(94)	2	□	ニ L=675	680	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MK 70・80・90	2	イ	ホ L=725	690	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MK 100	2	□	ニ L=675	680	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MF 1720・1723	3	□	ホ	550	A	G			井関農機OEM TJV68.75(TJV75は ZWX仕様のみ) MF1723はZWX仕様 のみ
MF 1723・1724・1726(ZLWX)	3	□	ホ	600	A	G			井関農機OEM TJV75・85・95 (ZLWX)
MF 1723(GLWX)	4	□	へ	640	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	井関農機OEM TJV75(GLWX) クイックヒッチタ イプのトップリン ク・ロアーリンク 水平制御付
MF 1724・1726(GLWD)	4	□	L=550	640	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	井関農機OEM TJV85.95(GLWD) クイックヒッチタ イプのトップリン ク・ロアーリンク 水平制御なし
MF 1728	3	□	ホ	620	A	G			井関農機OEM TJW107

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
MF 281・292 MF 481・492	3	ハ	L=800	800	A	G	KGC94M に交換	KGC90 に交換	
MF 362・365・265	3	イ	L=620	680	A	G	KGC84M に交換		
MF 382・396 MF 375・390・390T MF 275・285・290	3	ハ	L=710	730	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
MF 399	3	口	L=465	720	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
MF 374H・394H MF 294新	2	イ	L=540	540	A	G			
MF 394F	2	イ	L=490	570	A	G			
MF 394F旧	2	イ	L=420	570	A	G			
MF 675・690・698	3	ハ	L=710	730	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
MF 699	3	口	L=465	720	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
MF 2230	2	イ	ニ	600	A	G	30	50	Landini 井関農機TR63(マイ コン)
MF 2430・2435・2440	3	イ	L=515	640	A	G	KGC84M に交換		
MF 3050旧・3060旧・3065旧 MF 3070・3080・3090	3	イ	L=700	670	A	G			540rpmのみ
MF 3050新・3060新・3065新	3	イ	L=640	690	A	G			
MF 3075・3085・3095	3	イ	L=670	690	A	G			
MF 3610	3	口	L=770	740	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	540rpmのみ
MF 3625 MF 3635(78馬力)・3645(91馬力)	3	イ	L=530	585	A	G	30	30	馬力要確認
MF 4225・4235・4245・4255	3	イ	L=745	760	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
MF 4270	3	イ	L=750	790	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
MF 4445・4455	4	口	L=650	670	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
MF 5435・5445・5455・5460・5465	4	イ	L=690	620	A	G	20	30	
MF 6110・6120・6130・6140	3	口	L=680	680	A	G			
MF 6150・6160	3	口	L=720	680	A	G			
MF 6245	4	イ	L=700	640	A	G			
MF 6255・6260・6265	4	イ	L=720	660	A	G			
MF 6445・6455・6460	4	イ	L=690	640	A	G		30	
MF 6465	4	イ	L=720	680	A	G			
MF 7465	3	イ	L=690	680	A	G	KGC84M に交換		
T 4030・4040	2	口	L=670	600	A	G		40	
T 5050・5060	2	イ	L=595	635	B	G		40	
T 6010Delta・6015Delta	2	口	L=750	710	A	G	KGC84M に交換		
TM 120 TM 115	2	口	L=740	740	A	G	KGC84M に交換		
F 8160	2	口	L=740	740	A	G	KGC84M に交換		
TS 100A・110A・115A	2	口	L=790	695	A	G			
F 5030	1	口	L=770	625	A	G	40	50	ジョイント異音時 PTO切
F 5110・5610・6410・6610・6710	3	口	L=805	735	A	G			
F 6810・7610・7710・7810・8210 F 7600	2	口	L=805	685	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ (mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
TL 90A・100A TL 70・80・90 F 4835・5635・6635・7635 F 682・683・684 L 65・75・85	2	イ	L=600	660	A	G			ジョイント異音時 PTO切
TN 70S-A・75S-A・85S-A TN 75	2	イ	L=600	600	A	G			
TS 90・100・110 F 5640・6640・7740・7840・8240	1	口	L=810	640	A	G			ジョイント異音時 PTO切 トップリンク 取付穴1個
TS 90・100・110 F 5640・6640・7740・7840・8240	2	口	L=820	610	A	G			トップリンク 取付穴2個
T 2500MZ F 2500MZ	4	イ	へ	570	B	G		30	ロアピン内向き クボタOEM MZ655, MZ65
JD 5100R	3	イ	L=740	600	A	G		30	
JD 6105R	3	口	L=890	670	A	G			
JD 6230・6330 JD 6120・6220・6320・6420 JD 6110・6210・6310・6410・6510 JD 6100・6200・6300・6400・6600	3	イ	L=770	580	A	G			
JD 5325・5425・5525 JD 5420 JD 5410 JD 5400	3	イ	L=530	600	C	G		30	
JD 3050・3350 JD 3040・3140 JD 3130	1	イ	L=850	710	A	G			
JD 2250・2650・2850 JD 1640・2040・2140 JD 2030・2130	1	イ	L=645	640	A	G			トップリンク 取付穴 1 個
JD 2250・2650・2850 JD 1140・1640・2040・2140 JD 1630・2030・2130	3	イ	L=645	670	A	G			トップリンク 取付穴3個
JD 2650・2850	3	イ	L=645	670	A	G			トップリンク ロアリンクが クイックタイプ
MXU 100・110・115	2	口	L=790	695	A	G			CNH TS100A・110A・ 115A
MXM 120	2	口	L=740	740	A	G	KGC84M に交換		CNH TM120
In 695・795・895	2	口	L=700	660	A	G	KGC84M に交換		
In 5120・5130・5140	2	イ	L=630	850	A	G			
CX-L 65・75・85	1	イ	L=545	610	A	G	KGC84M に交換		
CX 75・85・95・105 CX 70・80・90・100	2	イ	L=720	620	A	G			ジョイント異音時 PTO切
MC 95・105・115・90・100 MXC 80・90・100 MX 100・110	2	イ	L=620	680	A	G	KGC84M に交換		
MXC 80・90(2008年～)	2	口	L=670	600	A	G		40	CNH T4030・4040
MXC100(2008年～)	2	イ	L=595	635	B	G		40	CNH T5050・5060
FENDT 309・310・311・312	3	イ	L=730	690	A	G			
DK902C	3	口	L=600	670	A	G			ジョイント異音時 PTO切

点検整備一覧表

時 間	項 目	参照ページ
新品 使用始め	チェンケース（ギヤーケース）のオイル量点検	17～18
新品 1 時間使用後	各部のボルト、ナットを増し締め	17
新品50時間使用後	①チェンケース（ギヤーケース）のオイル交換	35～36
	②サポートハウジングのオイル交換	36
毎日の作業前	①チェンケース（ギヤーケース）のオイル量、オイル漏れの点検	17～18
	②耕うん爪の取付ボルトの増し締め	17, 33
	③ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	17
	④地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常の点検	18
	⑤エプロンはね上げロックレバーへの給油	36
毎日の作業後	①洗浄後、水分拭き取り	34
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落の点検	32～33
	③耕うん爪の摩耗、爪ホルダの摩耗、折損の点検	32
	④入力軸へグリス塗布	34
	⑤ジョイントスプライン部へグリス塗布	34
	⑥ジョイント、ノックピンへ注油	17
	⑦可動部へ注油	35～36
150時間毎 又は シーズン終了後	①ギヤーケースのオイルシール、パッキンの異常点検	41
	②チェンケース（ギヤーケース）のオイル交換とオイルシール、 パッキンの異常点検	35～41
	③サポートハウジングのオイル給油、シールの異常点検	36
	④ジョイントのシャフトへのグリス塗布	34
	⑤安全ラベルの剥がれの点検	5
	⑥無塗装部へのサビ止め	34
	⑦消耗部品の早期交換	55

異常診断一覧表

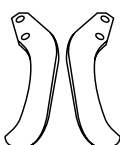
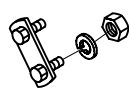
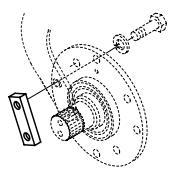
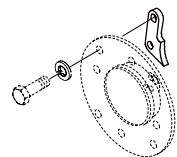
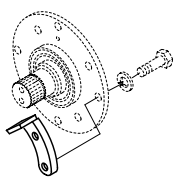
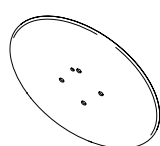
使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤー ケース	異 音 の 発 生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤーの損傷	ピニオンギヤとベベルギヤをセットで交換
		ベベルギヤーのかみ合い不良	シムで調節
	オ イ ル 漏 れ	入力軸：軸受け部オイルシールの損傷	オイルシール交換
		パッキンの劣化、損傷	パッキン交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
チェン ケース	異 音 の 発 生	チェーンテンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	オ イ ル 漏 れ	フローティングシール、Oリングの劣化、損傷	フローティングシール、Oリングの交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
フレーム	エプロン作動不良	エプロンヒンジ部のセンターが出ていない	ボルトをゆるめて調節
		可動部グリス切れ	グリス注入
	クイックアシスト作動不良	可動部グリス切れ	グリス注入
	カバーゴムの破損	逆転PTOによる耕うん作業	カバーゴムとコーティングボルト交換 ※一度使用したコーティングボルトを再使用すると、緩んで外れますので新しいものに交換してください

本体各部	症 状	原 因	対 策
フレーム	●はね上げロックピンの破損 ●コンプレッションロッドの曲がり ●エプロンゴムの破損等	エプロンをはね上げロック状態のままで、耕うん作業、路上走行をした。	部品破損の原因となりますので、エプロンはね上げ状態での耕うん作業、路上走行はしないでください。
耕うん軸	異 音 の 発 生	軸受部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		耕うん爪取付ボルトのゆるみ	ボルト締め付け
		耕うん爪の変形によるカバーとの干渉	耕うん爪交換
	振 動 の 発 生	耕うん軸の曲がり	耕うん軸交換
		耕うん爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	軸 回 転 不 良	チェンの切損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
		ギヤーの破損	ギヤー交換
	オ イ ル 漏 れ	フローティングシール、軸付きシールの損傷	フローティングシール、軸付きシールの交換
		パッキン、Oリングの劣化、損傷	パッキン、Oリング交換
	残 耕 の 発 生	耕うん爪の摩耗、折損	耕うん爪交換
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	異常な土寄りの発生	耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
ジョイント	異 音 の 発 生	グリス切れ	グリスアップ
		ジョイント折れ角が不適格	マッキング姿勢の矯正
		ローターの上げすぎ	リフト量の規制
	た わ み 発 生	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

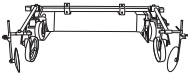
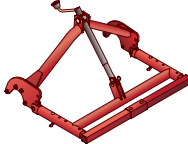
主な消耗部品一覧表

	部品名	チェーンケースシューズキットB			部品コード	5630650	1 台分個数	1
	備考	各型式共通 チェーンケースシューズと取付けボルトのセット						
	部品名	サポートシューズキット			部品コード	5630651	1 台分個数	1
	備考	各型式共通 サポートシューズと取付けボルトのセット						
	部品名	ツウエイゼットツメER2711ZR (黒色)			単品コード	68221		
		ツウエイゼットツメER2711ZL (赤色)				68222		
	耕幅	240	260	280				
	1 台分個数	RL各24	RL各26	RL各28				
	セットコード	4000S	4001S	4002S				
	備考							
	部品名	クミボルトASSY M16×39			単品コード	0050057		
	耕幅	240	260	280				
	1 台分個数	44	48	52				
	備考	耕うん軸中央部の耕うん爪取付け用						
	部品名	ツメボルトキット M16×55			単品コード	6570092	1 台分個数	8
		ツメボルト M16×45			単品コード	0050046	1 台分個数	8
	備考	耕うん軸端爪取付け用						
	部品名	セットナットM16			単品コード	6560013	1 台分個数	6
	備考	耕うん軸端爪、コーウンフランジシャフト取付け用						
	部品名	フィードカッターR			単品コード	5610404	1 台分個数	1
	備考	耕うん軸右端フランジに取付け (草わら巻付き防止)						
	部品名	スパーサA			単品コード	2450020	1 台分個数	1
	備考	耕うん軸左端フランジに取付け (草わら巻付き防止)						
	部品名	ディスク			部品コード	6540039	1 台分個数	1
	備考	各型式共通						

消耗部品は早めの交換をお勧めします。

弊社では、お客様に御迷惑が掛からないよう消耗部品を用意しておりますが、シーズンによっては特定の部品が品薄になる場合がございます。シーズン到来前の準備として、消耗部品の事前確認をしていただき、早めの交換をお勧めします。

アタッチメント一覧表

用途	品 名	コードNo.	型 式	規格（単位）	適応作業機
マルチ	平畦マルチ		RML18X		FTV240
		【仕様】	畦幅（70～150cm）／畦高さ（5～10cm） 別途リヤーヒッチ RH-KR2が必要		
取付ヒッチ	リヤーヒッチ		RH-KR2	60角＊207	FTV
		【仕様】	ハンドル式高さ調整リヤーヒッチ		

注）アタッチメントは取付金具等の関係上、ローター型式を明示の上御注文ください。
油圧揚力 3 t 未満のトラクタには装着出来ません。

用語解説

アタッチメント

作業機に後付けする部品

オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリープ

超低速の作業速度

耕深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

ロアーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで、左右1本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

[illegible]

[illegible]



小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashiindustries.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202